

令和5年度（2023年度）

北海道環境基本計画〔第3次計画〕に基づく  
関連指標群の状況（案）

令和6年（2024年）3月

北 海 道

# 目 次

I	施策の方向性等（一覧）	1
II	関連指標群の状況	
1	地域から取り組む地球環境の保全	3
2	北海道らしい循環型社会の形成	10
3	自然との共生を基本とした環境の保全と創造	18
4	安全・安心な地域環境の確保	29
5	共通的・基盤的な施策	34
III	【参考】指標群一覧	40

## I 施策の方向性等（一覧）

### 1 地域から取り組む地球環境の保全

#### 【施策の基本的な方向性】

- a 省エネルギーの徹底やエネルギーの効率的利用により、二酸化炭素など温室効果ガスの排出を抑制する
- b バイオマスや風力などの利活用による再生可能エネルギーの導入を推進する
- c 化石燃料への依存の少ないライフスタイルや事業活動への転換を推進する
- d 森林等における二酸化炭素吸収源対策を推進する
- e フロン類の管理の適正化などを推進する
- f 自然や社会のあり方を調整し、気候変動の影響に適応する

#### 【施策の方向】

- ア 温室効果ガス排出抑制対策等の推進
  - (ア) 多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化
  - (イ) 地域の特性を活かした自立・分散型エネルギーの導入等
  - (ウ) 森林等における吸収源対策
- イ 気候変動への適応策の推進
- ウ その他の地球環境保全対策の推進

### 2 北海道らしい循環型社会の形成

#### 【施策の基本的な方向性】

- a 廃棄物等の発生・排出を抑制し、循環資源の循環的利用を推進する
- b 廃棄物の適正処理を推進する
- c 廃棄物系及び未利用バイオマスの利活用を推進する
- d リサイクル関連産業を振興し、循環型社会ビジネス市場の拡大を図る

#### 【施策の方向】

- ア 3Rの推進
- イ 廃棄物の適正処理の推進
- ウ バイオマスの利活用の推進
- エ リサイクル関連産業を中心とした循環型社会ビジネスの振興

### 3 自然との共生を基本とした環境の保全と創造

#### 【施策の基本的な方向性】

- a 自然公園や自然環境保全地域等のすぐれた自然を保全する
- b 森林、農地、水辺等が有する環境保全機能の維持増進を図る
- c みどりや水辺とのふれあいづくりを推進する
- d 北海道らしい広域的な景観づくりを推進する
- e 自然環境の保全と適正な利用により、自然とのふれあいを推進する
- f 動物愛護精神の普及を図る
- g 希少野生動植物種の保護管理や、外来種による生態系等への影響低減などにより、生物多様性の保全を図る
- h 鳥獣の生息環境の保全や、鳥獣による農林水産業等被害の防止など、野生鳥獣の適正な保護管理を推進する

#### 【施策の方向】

- ア 自然環境等の保全及び快適な環境の創造
  - (ア) すぐれた自然環境の保全
  - (イ) 公益的な機能の高い森林の保全
  - (ウ) 快適な環境の保全と創造
  - (エ) 北海道らしい景観の形成
- イ 知床世界自然遺産の厳格な保全と適正な利用
- ウ 自然とのふれあいの推進
  - (ア) 自然とのふれあいの場と機会の確保
  - (イ) 自然の適正な利用
  - (ウ) 飼養動物の愛護と管理
- エ 野生生物の保護管理
  - (ア) 希少野生動植物種の保護
  - (イ) 外来種の防除の推進
  - (ウ) 野生鳥獣の適正な保護管理

#### 4 安全・安心な地域環境の確保

##### 【施策の基本的な方向性】

- a きれいな空気や水を守る
- b 健全な水循環を確保する
- c 静穏な生活環境を確保する
- d 化学物質等による環境リスクの低減を図る

##### 【施策の方向】

- ア 大気、水などの生活環境の保全
  - (ア) 大気環境の保全
  - (イ) 水環境の保全
  - (ウ) 騒音・振動・悪臭防止・土壌汚染・地盤沈下対策
- イ 化学物質等による環境汚染の未然防止
- ウ その他の生活環境保全対策

#### 5 共通的・基盤的な施策

##### 【施策の基本的な方向性】

- a 環境保全意識を持ち主体的に行動できる人づくりを推進する
- b 環境に配慮したライフスタイルの定着を図る
- c 事業者の環境に配慮した行動を促進する
- d 道が行う事務・事業における環境配慮を徹底する
- e 環境影響評価の適切な運用を通じて、開発事業における環境配慮を推進する
- f 環境への配慮を織り込んだまちづくりや地域づくりを推進する
- g 地域特性等を踏まえた環境関連ビジネスの振興を図る
- h 関係機関等と連携した調査研究・環境保全技術開発を推進する
- i 環境保全に資する国際的な取組を推進する

##### 【施策の方向】

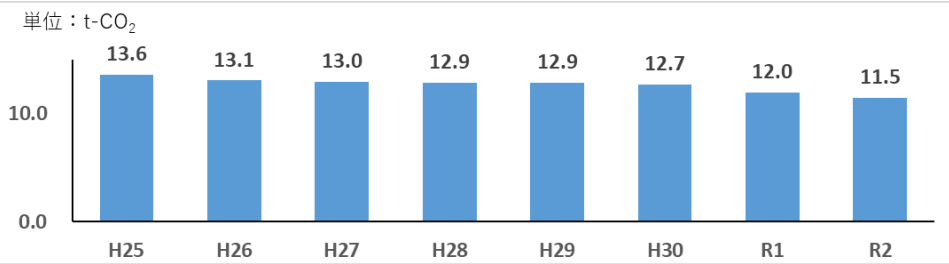
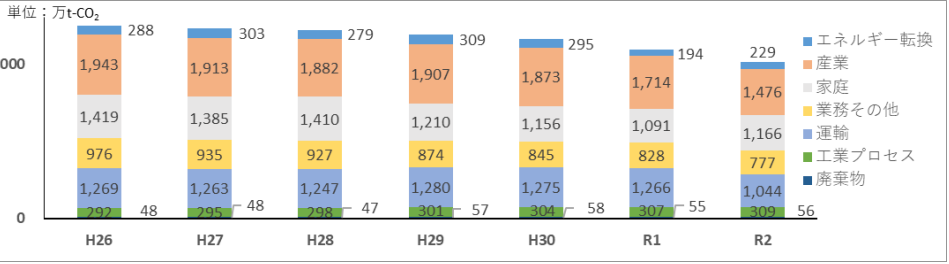
- ア 環境に配慮する人づくりの推進
  - (ア) 環境教育の推進・環境負荷の少ないライフスタイルの定着
  - (イ) 民間団体等の自発的な環境保全活動の促進・協働取組の推進
- イ 環境と経済の好循環の創出
  - (ア) 環境に配慮した事業活動の推進
  - (イ) 環境と調和した産業の展開
  - (ウ) 環境ビジネスの振興
- ウ 環境と調和したまちづくり
- エ 基盤的な施策（調査研究・情報提供・国際的な取組）

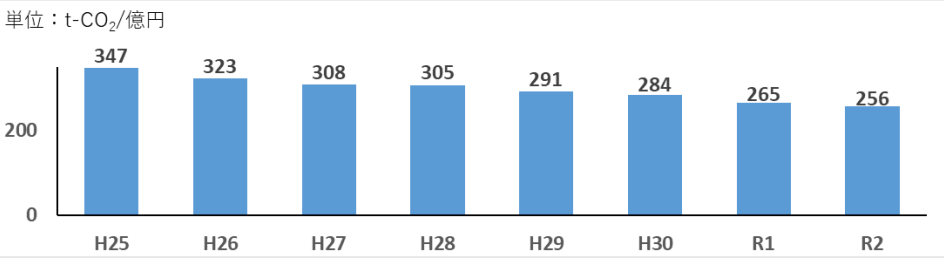
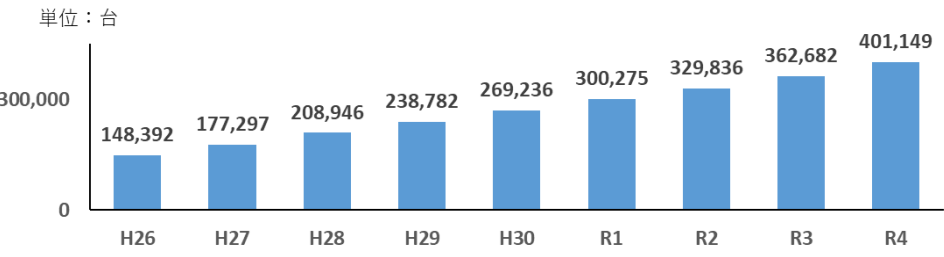
## II 関連指標群の状況

### 1 地域から取り組む地球環境の保全

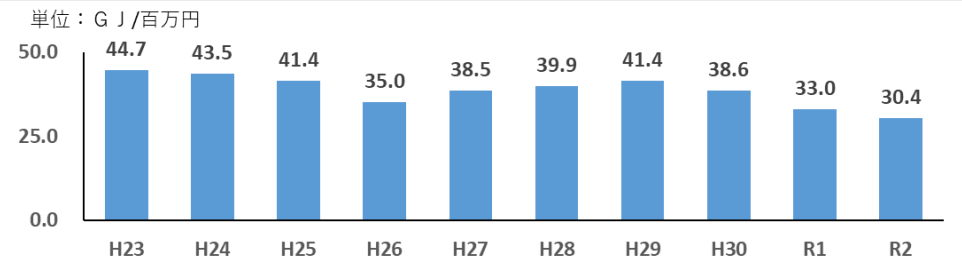
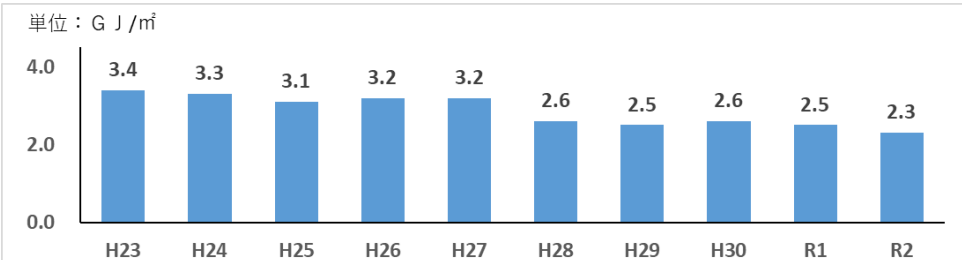
指標群名称 【指標群No.】	内 容																								
<p>指標 温室効果ガス実質 排出量 【1-指-①】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・二酸化炭素など 温室効果ガスの 排出抑制状況の 把握</p> <p>【関連計画】 ・ゼロカーボン北 海道推進計画 (経済部)</p>	計画策定時の現状（基準年）	7,369万 t-CO <sub>2</sub> （平成25年度）																							
	実績	5,209万 t-CO <sub>2</sub> （令和3年度（推計値））																							
	目標数値等	3,788万 t-CO <sub>2</sub> （令和12年度）																							
	<p>【施策の基本的な方向性】 a</p> <p>【施策の方向】 ア（ア）</p> <p><input type="checkbox"/> 環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 令和2年度（速報値）は基準年度と比較し、29.8%減となっており、平成25年度からの減少傾向が続いている。 排出量の約85%を占める二酸化炭素排出量では、産業部門、業務その他部門、家庭部門、運輸部門の排出量が基準年度より減少している。 家庭や事業所での省エネの取組などが促進したことなどが要因と考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 削減目標の達成に向けては、さらなる排出削減や吸収源確保の取組を推進することが必要。</p> <div data-bbox="453 864 1407 1122"> <p>単位：万t-CO<sub>2</sub></p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R12 目標</td></tr> <tr><th>排出量</th><td>7,369</td><td>5,896</td><td>6,012</td><td>5,936</td><td>5,804</td><td>5,780</td><td>5,494</td><td>5,176</td><td>5,209</td><td>3,788</td></tr> </table> </div> <p>※速報値：2023（R5）年7月末時点で入手可能な統計等から必要なデータを推計し、2020（R2）年度の温室効果ガスの予測値を算出 ※推計値：2023（R5）年7月末時点で入手可能な統計等に加え、未入手の統計データを他の統計実績値から推計し、20201（R3）年度の排出量の概算値を算出</p>		年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R12 目標	排出量	7,369	5,896	6,012	5,936	5,804	5,780	5,494	5,176	5,209	3,788	
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R12 目標															
排出量	7,369	5,896	6,012	5,936	5,804	5,780	5,494	5,176	5,209	3,788															
<p>指標 新エネルギー導入量 発電分野（発電電 力量） 【1-指-②】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・再生可能エネ ルギー（発電分 野）の導入推進 状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・省エネルギー・ 新エネルギー促 進行動計画（経 済部）</p>	計画策定時の現状（基準年）	10,065百万 kWh（令和2年度）																							
	実績	11,120百万 kWh（令和3年度）																							
	目標数値等	16,490百万 kWh（令和12年度）																							
	<p>【施策の基本的な方向性】 b</p> <p>【施策の方向】 ア（イ）</p> <p><input type="checkbox"/> 太陽光、風力、地熱、中小水力、バイオマス、雪氷など全国トップクラスの豊富なエネルギー資源を有効に活用した自立・分散型エネルギーの導入等を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 令和2年度実績の約1割となる1,000万kWh増加し、令和12年度の目標達成に向けて順調に推移している。 太陽光発電設備や風力発電設備の新設、太陽光や廃棄物の稼働率の増加などにより実績値が伸びたことによる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省エネ・新エネ促進行動計画に基づき、エネルギー地産地消への支援や大規模でコスト低減が見込まれる洋上風力などの開発・導入を促進する。</p> <div data-bbox="453 1715 1407 1973"> <p>単位：百万kWh</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R12 目標</td></tr> <tr><th>導入量</th><td>5,866</td><td>6,224</td><td>5,924</td><td>6,775</td><td>7,693</td><td>7,921</td><td>8,611</td><td>8,786</td><td>10,065</td><td>11,120</td><td>16,490</td></tr> </table> </div>		年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R12 目標	導入量	5,866	6,224	5,924	6,775	7,693	7,921	8,611	8,786	10,065	11,120
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R12 目標														
導入量	5,866	6,224	5,924	6,775	7,693	7,921	8,611	8,786	10,065	11,120	16,490														

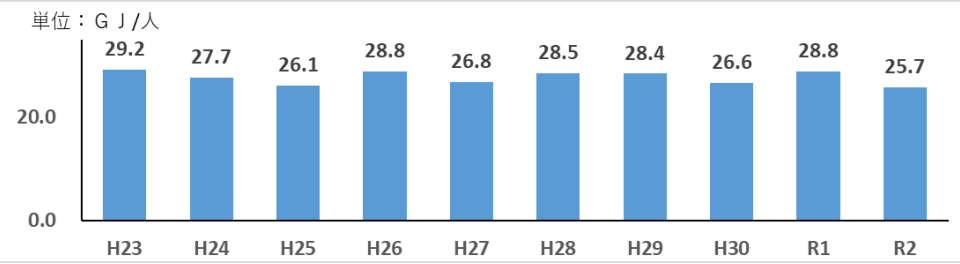
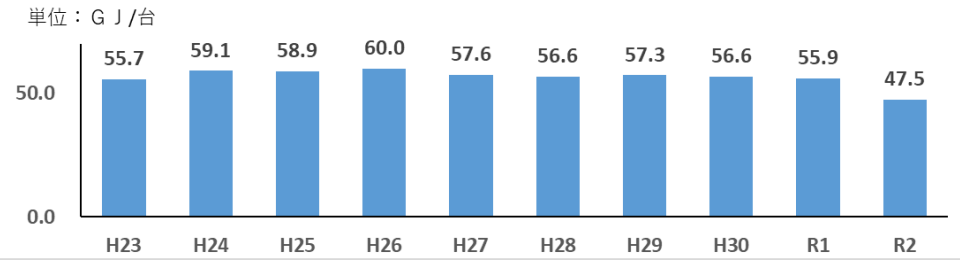
指標群名称 【指標群No.】	内 容																								
<p>指標 新エネルギー導入量 熱利用分野 【1-指-3】</p> <p>【指標群設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー（熱利用分野）の導入推進状況の把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー・新エネルギー促進行動計画（経済部）</li> </ul>	計画策定時の現状（基準年）	14,551 T J（令和2年度）																							
	実績	15,652 T J（令和3年度）																							
	目標数値等	20,960 T J（令和12年度）																							
	<p>【施策の基本的な方向性】 b</p> <p>【施策の方向】 ア（イ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光、風力、地熱、中小水力、バイオマス、雪氷など全国トップクラスの豊富なエネルギー資源を有効に活用した自立・分散型エネルギーの導入等を進めます。</li> </ul> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度実績から約1,000TJ増加し、令和12年度の目標達成に向けて順調に推移している。 木質バイオマス施設の新設や供給量増、公共施設への地中熱施設の新設などにより熱利用が進んだ。</li> <li>省エネ・新エネ促進行動計画に基づき、地域毎に特色を有する資源を活用したエネルギー地産地消への支援など、新エネルギーを活用した熱利用を促進する。</li> </ul> <div data-bbox="443 748 1417 1010"> <p>単位：T J</p> <table border="1"> <caption>エネルギー消費実績（単位：T J）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>消費量 (T J)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>12,257</td></tr> <tr><td>H25</td><td>12,919</td></tr> <tr><td>H26</td><td>13,242</td></tr> <tr><td>H27</td><td>13,979</td></tr> <tr><td>H28</td><td>14,227</td></tr> <tr><td>H29</td><td>14,932</td></tr> <tr><td>H30</td><td>14,713</td></tr> <tr><td>R1</td><td>14,578</td></tr> <tr><td>R2</td><td>14,551</td></tr> <tr><td>R3</td><td>15,652</td></tr> <tr><td>R12 目標</td><td>20,960</td></tr> </tbody> </table> </div>		年度	消費量 (T J)	H24	12,257	H25	12,919	H26	13,242	H27	13,979	H28	14,227	H29	14,932	H30	14,713	R1	14,578	R2	14,551	R3	15,652	R12 目標
年度	消費量 (T J)																								
H24	12,257																								
H25	12,919																								
H26	13,242																								
H27	13,979																								
H28	14,227																								
H29	14,932																								
H30	14,713																								
R1	14,578																								
R2	14,551																								
R3	15,652																								
R12 目標	20,960																								
<p>個別指標 森林吸収量 【1-個-1】</p> <p>【指標群設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林における二酸化炭素吸収源対策の推進状況の把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林吸収源対策推進計画（水産林務部）</li> </ul>	計画策定時の現状（基準年）	840 万 t-CO <sub>2</sub> （平成元年度）																							
	実績	986 万 t-CO <sub>2</sub> （令和3年度）																							
	目標数値等	850 万 t-CO <sub>2</sub> （令和12年度）																							
	<p>【施策の基本的な方向性】 d</p> <p>【施策の方向】 ア（ウ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「森林吸収源対策推進計画」に基づき、森林の整備や保全を着実に進めるとともに、地域材の利用を促進し、森林や木材が持つ二酸化炭素吸収・固定機能の高度発揮を図るなど、森林における吸収源対策を推進します。</li> </ul> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の森林による吸収量は986万t-CO<sub>2</sub>で、前年度から32%増加。 令和3年度の増加については、コロナ禍において一時的に皆伐による伐採量が減少したことなどが要因と考えられる。</li> <li>森林吸収源対策を推進するために、森林の若返りによる活力ある森林づくりや、道産木材の利用促進に取り組む。</li> </ul> <div data-bbox="443 1570 1417 1832"> <p>単位：万t-CO<sub>2</sub></p> <table border="1"> <caption>森林吸収量実績（単位：万t-CO<sub>2</sub>）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>吸収量 (万t-CO<sub>2</sub>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H26</td><td>1,235</td></tr> <tr><td>H27</td><td>965</td></tr> <tr><td>H28</td><td>936</td></tr> <tr><td>H29</td><td>990</td></tr> <tr><td>H30</td><td>852</td></tr> <tr><td>R1</td><td>840</td></tr> <tr><td>R2</td><td>747</td></tr> <tr><td>R3</td><td>986</td></tr> <tr><td>R12 目標</td><td>850</td></tr> </tbody> </table> </div>		年度	吸収量 (万t-CO <sub>2</sub> )	H26	1,235	H27	965	H28	936	H29	990	H30	852	R1	840	R2	747	R3	986	R12 目標	850			
年度	吸収量 (万t-CO <sub>2</sub> )																								
H26	1,235																								
H27	965																								
H28	936																								
H29	990																								
H30	852																								
R1	840																								
R2	747																								
R3	986																								
R12 目標	850																								

指標群名称 【指標群No.】	内 容																		
<p>補足データ 道民一人当たりの 温室効果ガス排出量 【1-補-①】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化炭素など 温室効果ガスの 排出抑制状況の 把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロカーボン北 海道推進計画 (経済部)</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</li> </ul> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 一人当たりの温室効果ガス排出量は、平成25年度から減少傾向となっている。人口減少を上回る速度で、道内の二酸化炭素排出量が減少傾向にあることから、一人当たりの温室効果ガス排出量も減少傾向となっている。</li> <li>□ 一人当たりの温室効果ガス排出量をより一層削減するため、道民・事業者に対し、ライフスタイル・ビジネススタイルの転換につながる取組を広く呼びかける必要がある。</li> </ul>  <table border="1"> <caption>単位：t-CO<sub>2</sub></caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>排出量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25</td><td>13.6</td></tr> <tr><td>H26</td><td>13.1</td></tr> <tr><td>H27</td><td>13.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>12.9</td></tr> <tr><td>H29</td><td>12.9</td></tr> <tr><td>H30</td><td>12.7</td></tr> <tr><td>R1</td><td>12.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td>11.5</td></tr> </tbody> </table>	年度	排出量	H25	13.6	H26	13.1	H27	13.0	H28	12.9	H29	12.9	H30	12.7	R1	12.0	R2	11.5
年度	排出量																		
H25	13.6																		
H26	13.1																		
H27	13.0																		
H28	12.9																		
H29	12.9																		
H30	12.7																		
R1	12.0																		
R2	11.5																		
<p>補足データ 部門別二酸化炭素 排出量 【1-補-②】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化炭素など 温室効果ガスの 排出抑制状況の 把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロカーボン北 海道推進計画 (経済部)</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</li> </ul> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 主要な排出部門である産業部門、家庭部門及び業務その他部門については、平成25年度から減少傾向である。産業部門、家庭部門及び業務その他部門の減少については、家庭や事業所の省エネの取組などが要因の一つと考えられる。</li> <li>□ ゼロカーボン北海道推進計画に定める目標達成に向けて、さらなる排出削減の取組を推進することが必要。</li> </ul>  <table border="1"> <caption>単位：万t-CO<sub>2</sub></caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>総排出量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H26</td><td>288</td></tr> <tr><td>H27</td><td>303</td></tr> <tr><td>H28</td><td>279</td></tr> <tr><td>H29</td><td>309</td></tr> <tr><td>H30</td><td>295</td></tr> <tr><td>R1</td><td>194</td></tr> <tr><td>R2</td><td>229</td></tr> </tbody> </table>	年度	総排出量	H26	288	H27	303	H28	279	H29	309	H30	295	R1	194	R2	229		
年度	総排出量																		
H26	288																		
H27	303																		
H28	279																		
H29	309																		
H30	295																		
R1	194																		
R2	229																		

指標群名称 【指標群No.】	内 容
<p>補足データ 環境効率性 【1-補-③】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・二酸化炭素など温室効果ガスの排出抑制状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・ゼロカーボン北海道推進計画（経済部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア（ア）</p> <p><input type="checkbox"/> 環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 平成25年度から減少傾向にある。</p> <p>単位：t-CO<sub>2</sub>/億円</p>  <p>※ 環境効率性 財やサービスの生産に伴って発生する環境への負荷の考え方。同じ機能・役割を果たす財やサービスの生産を比べた場合に、それに伴って発生する環境への負荷が小さければ、それだけ環境効率性が高いということとなる。（平成10年度環境白書） 計算式：二酸化炭素排出量 ÷ 道内総生産</p>
<p>補足データ 次世代自動車の保有台数 【1-補-④】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・化石燃料への依存の少ないライフスタイルや事業活動への転換推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・ゼロカーボン北海道推進計画（経済部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 ア（ア）</p> <p><input type="checkbox"/> 環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 次世代自動車の保有台数は年々増加しており、登録車両全体に占める割合も上昇してきている。 継続的な啓発活動による効果やゼロカーボンへの意識の高まり、また近年の燃料価格高騰等による経済性への配慮などにより、自動車購入時に次世代自動車を選択する方が増加しているものと推察される。</p> <p><input type="checkbox"/> 各種イベントの開催・出展や広報媒体の活用により、引き続き、次世代自動車の普及促進に努める。</p> <p>単位：台</p>  <p><b>燃料別台数内訳（令和5年3月末）（軽自動車を含まない）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド(HV) 391,479台、プラグインハイブリッド(PHV) 6,919台、電気自動車(EV) 2,618台、天然ガス自動車(CNG) 62台、燃料電池車(FCV) 71台</li> <li>・引用元（一般財団法人自動車検査登録情報協会） <a href="https://www.airia.or.jp/publish/statistics/trend.html">https://www.airia.or.jp/publish/statistics/trend.html</a></li> <li>・北海道経済部地球温暖化対策課ホームページ <a href="https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/tot/ecocar.html">https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/tot/ecocar.html</a></li> </ul>



指標群名称 【指標群No.】	内 容																						
<p>補足データ 産業部門エネルギー 消費原単位 【1-補-⑤】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二酸化炭素など 温室効果ガスの 排出抑制状況の 把握（各部門）</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー・ 新エネルギー促 進行動計画（経 済部）</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア（ア）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</li> </ul> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度からまでは増加、平成30年度以降は減少傾向が続いており、令和2年度は前年度比約8%減となった。 道内生産額と比較し、エネルギー消費量が大きく減少したことによる。</li> <li>省エネ・新エネ促進行動計画に基づき、引き続き、省エネルギーの一層の促進を図る。</li> </ul>  <p>単位：G J / 百万円</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td></tr> <tr><th>値</th><td>44.7</td><td>43.5</td><td>41.4</td><td>35.0</td><td>38.5</td><td>39.9</td><td>41.4</td><td>38.6</td><td>33.0</td><td>30.4</td></tr> </table>	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	値	44.7	43.5	41.4	35.0	38.5	39.9	41.4	38.6	33.0	30.4
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2													
値	44.7	43.5	41.4	35.0	38.5	39.9	41.4	38.6	33.0	30.4													
<p>補足データ 業務部門エネルギー 消費原単位 【1-補-⑥】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二酸化炭素など 温室効果ガスの 排出抑制状況の 把握（各部門）</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー・ 新エネルギー促 進行動計画（経 済部）</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア（ア）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</li> </ul> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度以降横ばいが続いていたが、令和2年度は前年度比8%減となった。 事業所の床面積はほぼ横ばいだったが、エネルギー消費量が減少したため。</li> <li>省エネ・新エネ促進行動計画に基づき、引き続き、省エネルギーの一層の促進を図る。</li> </ul>  <p>単位：G J / m<sup>2</sup></p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td></tr> <tr><th>値</th><td>3.4</td><td>3.3</td><td>3.1</td><td>3.2</td><td>3.2</td><td>2.6</td><td>2.5</td><td>2.6</td><td>2.5</td><td>2.3</td></tr> </table>	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	値	3.4	3.3	3.1	3.2	3.2	2.6	2.5	2.6	2.5	2.3
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2													
値	3.4	3.3	3.1	3.2	3.2	2.6	2.5	2.6	2.5	2.3													

指標群名称 【指標群No.】	内 容																						
<p>補足データ 家庭部門エネルギー 消費原単位 【1-補-⑦】</p> <p><b>【指標群設定の考え方】</b> ・二酸化炭素など温室効果ガスの排出抑制状況の把握（各部門）</p> <p><b>【個別計画】</b> ・省エネルギー・新エネルギー促進行動計画（経済部）</p>	<p><b>【施策の基本的な方向性】</b> a <b>【施策の方向】</b> ア（ア）</p> <p><input type="checkbox"/> 環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</p> <p><b>【指標群の進捗状況等】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 平成28年度と令和元年度は前年度比で増加したものの、減少傾向となっている。道内人口は横ばいだが、エネルギー消費量が減少したことによる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省エネ・新エネ促進行動計画に基づき、引き続き、省エネルギーの一層の促進を図る。</p>  <table border="1"> <caption>家庭部門エネルギー消費原単位 (単位: GJ/人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>消費原単位 (GJ/人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>29.2</td></tr> <tr><td>H24</td><td>27.7</td></tr> <tr><td>H25</td><td>26.1</td></tr> <tr><td>H26</td><td>28.8</td></tr> <tr><td>H27</td><td>26.8</td></tr> <tr><td>H28</td><td>28.5</td></tr> <tr><td>H29</td><td>28.4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>26.6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>28.8</td></tr> <tr><td>R2</td><td>25.7</td></tr> </tbody> </table>	年度	消費原単位 (GJ/人)	H23	29.2	H24	27.7	H25	26.1	H26	28.8	H27	26.8	H28	28.5	H29	28.4	H30	26.6	R1	28.8	R2	25.7
年度	消費原単位 (GJ/人)																						
H23	29.2																						
H24	27.7																						
H25	26.1																						
H26	28.8																						
H27	26.8																						
H28	28.5																						
H29	28.4																						
H30	26.6																						
R1	28.8																						
R2	25.7																						
<p>補足データ 運輸部門エネルギー 消費原単位 【1-補-⑧】</p> <p><b>【指標群設定の考え方】</b> ・二酸化炭素など温室効果ガスの排出抑制状況の把握（各部門）</p> <p><b>【個別計画】</b> ・省エネルギー・新エネルギー促進行動計画（経済部）</p>	<p><b>【施策の基本的な方向性】</b> a <b>【施策の方向】</b> ア（ア）</p> <p><input type="checkbox"/> 環境・経済・社会の統合的向上による脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と「2050年までのゼロカーボン北海道の実現」という目標を共有しながら協働し、社会システムの脱炭素化に向けた取組を総合的に推進します。</p> <p><b>【指標群の進捗状況等】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 平成27年度以降はほぼ横ばいが続いていたが、令和2年度は約15%減と大きく減少した。自動車保有台数はほぼ横ばいだったが、エネルギー消費量が減少したため。</p> <p><input type="checkbox"/> 省エネ・新エネ促進行動計画に基づき、引き続き、省エネルギーの一層の促進を図る。</p>  <table border="1"> <caption>運輸部門エネルギー消費原単位 (単位: GJ/台)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>消費原単位 (GJ/台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>55.7</td></tr> <tr><td>H24</td><td>59.1</td></tr> <tr><td>H25</td><td>58.9</td></tr> <tr><td>H26</td><td>60.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>57.6</td></tr> <tr><td>H28</td><td>56.6</td></tr> <tr><td>H29</td><td>57.3</td></tr> <tr><td>H30</td><td>56.6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>55.9</td></tr> <tr><td>R2</td><td>47.5</td></tr> </tbody> </table>	年度	消費原単位 (GJ/台)	H23	55.7	H24	59.1	H25	58.9	H26	60.0	H27	57.6	H28	56.6	H29	57.3	H30	56.6	R1	55.9	R2	47.5
年度	消費原単位 (GJ/台)																						
H23	55.7																						
H24	59.1																						
H25	58.9																						
H26	60.0																						
H27	57.6																						
H28	56.6																						
H29	57.3																						
H30	56.6																						
R1	55.9																						
R2	47.5																						

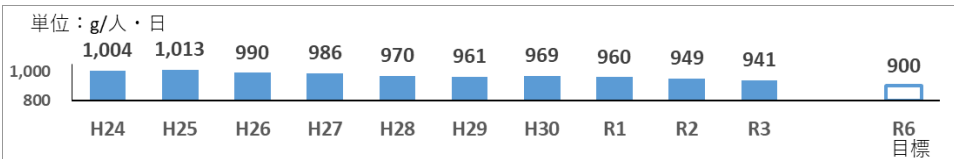
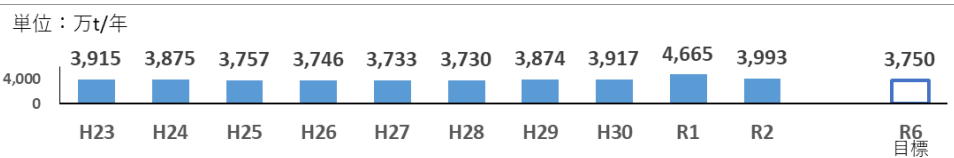
指標群名称 【指標群No.】	内 容																				
<p>補足データ フロン排出抑制法 に基づくフロン類 の回収量・破壊量 【1-補-⑨】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フロン類の管理 の適正化の推進 状況の把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>—（経済部）</li> </ul>	<p><b>【施策の基本的な方向性】</b> e <b>【施策の方向】</b> ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガス排出抑制及びオゾン層保護のため、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化を推進します。</li> </ul> <p><b>【指標群の進捗状況等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度から令和元年度にかけて増加傾向であったが、その後の令和2年度、3年度は回収量減少が続いている。なお、破壊量は毎年回収量の8割程度で推移している。</li> </ul> <div data-bbox="443 544 1417 808"> <p>単位：kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回収量・破壊量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>81,147</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>93,055</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>112,862</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>128,753</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>118,881</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>138,805</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>165,825</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>126,272</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>114,690</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	回収量・破壊量 (kg)	H25	81,147	H26	93,055	H27	112,862	H28	128,753	H29	118,881	H30	138,805	R1	165,825	R2	126,272	R3	114,690
年度	回収量・破壊量 (kg)																				
H25	81,147																				
H26	93,055																				
H27	112,862																				
H28	128,753																				
H29	118,881																				
H30	138,805																				
R1	165,825																				
R2	126,272																				
R3	114,690																				

## II 関連指標群の状況

### 2 北海道らしい循環型社会の形成

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																														
<b>指標</b> <b>循環利用率</b> <b>【2-指-①】</b>	計画策定時の現状（基準年）	15.7%（平成29年度）																																																																													
	実績	15.7%（平成29年度）																																																																													
	目標数値等	17%（令和6年度）																																																																													
	<b>【指標群設定の考え方】</b> ・循環資源の循環的利用推進状況の把握  <b>【関連計画】</b> ・循環型社会形成推進基本計画（環境生活部）																																																																														
<b>【施策の基本的な方向性】</b> a <b>【施策の方向】</b> ア <input type="checkbox"/> 3Rを推進するため、環境に配慮するライフスタイル・ビジネススタイルの定着に向けた普及啓発や、廃棄物の排出抑制・リサイクルに係る基盤整備を進めるほか、各種リサイクル法に基づき、個別分野のリサイクルを推進します。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 基準年以降、指標の調査結果が出ていないことから現時点での進捗は不明。当該指標の調査は5年に1度であり、最新となる令和4年度の調査結果がまだ出ておらず、基準年からの進捗状況は現時点では不明。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、引き続き、循環型社会形成推進基本計画に沿って廃棄物の排出削減やリサイクルの取組を進める。																																																																															
<b>指標</b> <b>最終処分量</b> <b>【2-指-②】</b>	計画策定時の現状（基準年）	100万t（平成29年度）																																																																													
	実績	105.0万t（令和2年度）																																																																													
	目標数値等	82万t（令和6年度）																																																																													
	<b>【指標群設定の考え方】</b> ・循環資源の循環的利用推進状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・循環型社会形成推進基本計画（環境生活部）																																																																														
<b>【施策の基本的な方向性】</b> a <b>【施策の方向】</b> ア <input type="checkbox"/> 3Rを推進するため、環境に配慮するライフスタイル・ビジネススタイルの定着に向けた普及啓発や、廃棄物の排出抑制・リサイクルに係る基盤整備を進めるほか、各種リサイクル法に基づき、個別分野のリサイクルを推進します。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 一般廃棄物は減少傾向、産業廃棄物は横ばいで全体としては横ばいで推移している。一般廃棄物は一人あたりのごみの排出量や人口減少による排出量の減少に伴い、最終処分量が減少傾向したと思われる。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、資源化による減容化や可燃物の広域処理による最終処分量の削減の推進、循環資源利用促進税事業の活用など、廃棄物の排出量削減やリサイクルの取組を一層進める。																																																																															
※ 令和元年度から推計方法を変更。 ○ 地域別に占める割合は、道央広域で60%、次いで道北で17%となっている。		（単位：万t） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>74.8</td> <td>71.9</td> <td>75.1</td> <td>69.2</td> <td>66.5</td> <td>66.7</td> <td>55.7</td> <td>56.6</td> <td>76.8</td> <td>58.8</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>5.7</td> <td>7.8</td> <td>8.1</td> <td>7.8</td> <td>7.9</td> <td>7.6</td> <td>7.2</td> <td>7.4</td> <td>6.3</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>19.5</td> <td>13.0</td> <td>13.5</td> <td>12.8</td> <td>13.0</td> <td>12.9</td> <td>13.9</td> <td>13.7</td> <td>18.9</td> <td>17.5</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>7.1</td> <td>7.7</td> <td>7.5</td> <td>6.9</td> <td>7.3</td> <td>7.2</td> <td>7.4</td> <td>7.3</td> <td>9.8</td> <td>9.1</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>7.5</td> <td>5.9</td> <td>5.7</td> <td>5.4</td> <td>5.5</td> <td>5.6</td> <td>8.9</td> <td>9.0</td> <td>6.9</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>8.8</td> <td>5.9</td> <td>6.1</td> <td>5.6</td> <td>5.6</td> <td>5.9</td> <td>6.5</td> <td>6.4</td> <td>4.5</td> <td>5.2</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	道央広域(70)	74.8	71.9	75.1	69.2	66.5	66.7	55.7	56.6	76.8	58.8	道南(18)	5.7	7.8	8.1	7.8	7.9	7.6	7.2	7.4	6.3	6.0	道北(41)	19.5	13.0	13.5	12.8	13.0	12.9	13.9	13.7	18.9	17.5	オホーツク(18)	7.1	7.7	7.5	6.9	7.3	7.2	7.4	7.3	9.8	9.1	十勝(19)	7.5	5.9	5.7	5.4	5.5	5.6	8.9	9.0	6.9	8.4	釧路・根室(13)	8.8	5.9	6.1	5.6	5.6	5.9	6.5	6.4	4.5	5.2
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																					
道央広域(70)	74.8	71.9	75.1	69.2	66.5	66.7	55.7	56.6	76.8	58.8																																																																					
道南(18)	5.7	7.8	8.1	7.8	7.9	7.6	7.2	7.4	6.3	6.0																																																																					
道北(41)	19.5	13.0	13.5	12.8	13.0	12.9	13.9	13.7	18.9	17.5																																																																					
オホーツク(18)	7.1	7.7	7.5	6.9	7.3	7.2	7.4	7.3	9.8	9.1																																																																					
十勝(19)	7.5	5.9	5.7	5.4	5.5	5.6	8.9	9.0	6.9	8.4																																																																					
釧路・根室(13)	8.8	5.9	6.1	5.6	5.6	5.9	6.5	6.4	4.5	5.2																																																																					

指標群名称 【指標等No.】	内 容																						
<p>指標 廃棄物系 バイオマス 利活用率 【2-指-③】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・バイオマスの利活用推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・バイオマス活用推進計画（経済部）</p>	計画策定時の現状（基準年）	89.8%（平成28年度）																					
	実績	91.1%（令和2年度）																					
	目標数値等	90%（令和4年度）																					
	<p>【施策の基本的な方向性】 c</p> <p>【施策の方向】 u</p> <p><input type="checkbox"/> 「北海道バイオマス活用推進計画」に基づき、市町村などの取組を促進するとともに、利活用システムの構築や施設整備を支援します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 横ばいで推移している。 既に目標値を達成しており、十分な利活用がなされていると考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 現状の高い水準を維持するため、引き続き、道内のバイオマス資源の有効活用を促進するための取組を行う。</p>																						
	<p>単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>88.2</td></tr> <tr><td>H25</td><td>88.4</td></tr> <tr><td>H26</td><td>89.1</td></tr> <tr><td>H27</td><td>90.2</td></tr> <tr><td>H28</td><td>89.8</td></tr> <tr><td>H29</td><td>89.8</td></tr> <tr><td>H30</td><td>90.4</td></tr> <tr><td>R1</td><td>91.2</td></tr> <tr><td>R2</td><td>91.1</td></tr> <tr><td>R4 目標</td><td>90.0</td></tr> </tbody> </table>		年度	利用率 (%)	H24	88.2	H25	88.4	H26	89.1	H27	90.2	H28	89.8	H29	89.8	H30	90.4	R1	91.2	R2	91.1	R4 目標
年度	利用率 (%)																						
H24	88.2																						
H25	88.4																						
H26	89.1																						
H27	90.2																						
H28	89.8																						
H29	89.8																						
H30	90.4																						
R1	91.2																						
R2	91.1																						
R4 目標	90.0																						
<p>指標 未利用 バイオマス 利活用率 【2-指-④】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・バイオマスの利活用推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・バイオマス活用推進計画（経済部）</p>	計画策定時の現状（基準年）	71.5%（平成28年度）																					
	実績	80.4%（令和2年度）																					
	目標数値等	70%（令和4年度）																					
	<p>【施策の基本的な方向性】 c</p> <p>【施策の方向】 u</p> <p><input type="checkbox"/> 「北海道バイオマス活用推進計画」に基づき、市町村などの取組を促進するとともに、利活用システムの構築や施設整備を支援します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 平成29年度以降、80%前後で推移している。 既に目標値を達成しており、十分な利活用がなされていると考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 現状の高い水準を維持するため、引き続き、道内のバイオマス資源の有効活用を促進するための取組を行う。</p>																						
	<p>単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>60.4</td></tr> <tr><td>H25</td><td>63.2</td></tr> <tr><td>H26</td><td>62.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>60.1</td></tr> <tr><td>H28</td><td>71.5</td></tr> <tr><td>H29</td><td>80.1</td></tr> <tr><td>H30</td><td>81.4</td></tr> <tr><td>R1</td><td>77.9</td></tr> <tr><td>R2</td><td>80.4</td></tr> <tr><td>R4 目標</td><td>70.0</td></tr> </tbody> </table>		年度	利用率 (%)	H24	60.4	H25	63.2	H26	62.0	H27	60.1	H28	71.5	H29	80.1	H30	81.4	R1	77.9	R2	80.4	R4 目標
年度	利用率 (%)																						
H24	60.4																						
H25	63.2																						
H26	62.0																						
H27	60.1																						
H28	71.5																						
H29	80.1																						
H30	81.4																						
R1	77.9																						
R2	80.4																						
R4 目標	70.0																						

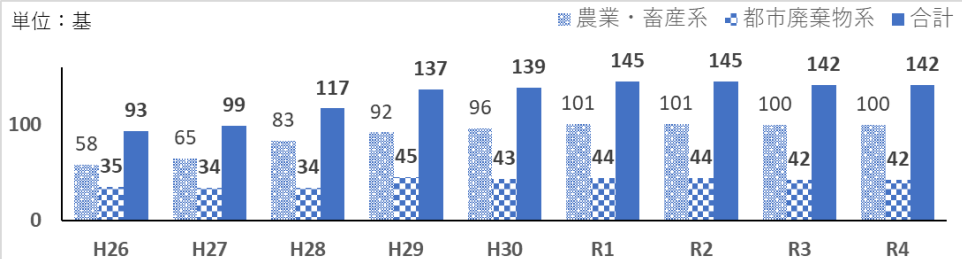
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																													
<p>個別指標 一般廃棄物の排出量 (一人1日当たり) 【2-個-①】</p> <p>【指標群設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の適正処理推進状況の把握</li> </ul> <p>【関連計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環型社会形成推進基本計画 (環境生活部)</li> </ul>	計画策定時の現状（基準年）	961 g/人・日（平成29年度）																																																																												
	実績	941 g/人・日（令和3年度）																																																																												
	目標数値等	900 g/人・日（令和6年度）																																																																												
	<p>【施策の基本的な方向性】 b 【施策の方向】 イ</p> <p><input type="checkbox"/> 一般廃棄物の処理を担う市町村等に対し、一般廃棄物の処理に関する市町村の責務が十分果たされるよう有効な情報提供や技術的支援等を行い、適正処理の徹底や施設整備を促進します。また、大規模災害の発生に備え、災害廃棄物にかかる対策を推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 目標達成に向け徐々に減少している。事業系一般廃棄物の減少に対して、家庭系一般廃棄物の減少幅が大きい状況となっており、メーカーによる容器包装の減量化などによって減少したと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 目標の達成（に向けて、生ごみの堆肥化やメタン化などへの利用を促進するなど一般廃棄物の排出量削減の推進の取組を一層進める。</p>  <p>単位：g/人・日</p> <p>○ 十勝圏域において目標を達成しているほか、道央広域圏域において達成まで約6gとなっている。目標を達成している十勝圏域においては、事業系一般廃棄物の排出量が道内全体と比較して約80g少ないなど、産業構造に起因する可能性がある。</p> <table border="1" data-bbox="446 940 1404 1120"> <caption>(単位：g/日・人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>1,001.8</td> <td>1,004.5</td> <td>982.4</td> <td>967.6</td> <td>948.9</td> <td>935.8</td> <td>942.4</td> <td>928.2</td> <td>912.0</td> <td>906.1</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>1,062.6</td> <td>1,075.3</td> <td>1,059.3</td> <td>1,064.1</td> <td>1,064.5</td> <td>1,055.3</td> <td>1,083.4</td> <td>1,102.9</td> <td>1,082.0</td> <td>1,059.4</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>976.7</td> <td>991.8</td> <td>980.6</td> <td>983.6</td> <td>978.9</td> <td>992.2</td> <td>1,000.5</td> <td>990.0</td> <td>977.6</td> <td>974.2</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>1,026.1</td> <td>1,040.7</td> <td>1,003.9</td> <td>1,017.3</td> <td>995.1</td> <td>976.7</td> <td>975.9</td> <td>990.5</td> <td>1,013.4</td> <td>998.1</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>884.4</td> <td>916.4</td> <td>887.5</td> <td>878.8</td> <td>879.4</td> <td>881.0</td> <td>889.9</td> <td>880.6</td> <td>894.6</td> <td>875.2</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>1,100.2</td> <td>1,136.9</td> <td>1,091.8</td> <td>1,121.3</td> <td>1,126.9</td> <td>1,116.7</td> <td>1,123.9</td> <td>1,113.5</td> <td>1,117.4</td> <td>1,127.1</td> </tr> </tbody> </table>			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	道央広域(70)	1,001.8	1,004.5	982.4	967.6	948.9	935.8	942.4	928.2	912.0	906.1	道南(18)	1,062.6	1,075.3	1,059.3	1,064.1	1,064.5	1,055.3	1,083.4	1,102.9	1,082.0	1,059.4	道北(41)	976.7	991.8	980.6	983.6	978.9	992.2	1,000.5	990.0	977.6	974.2	オホーツク(18)	1,026.1	1,040.7	1,003.9	1,017.3	995.1	976.7	975.9	990.5	1,013.4	998.1	十勝(19)	884.4	916.4	887.5	878.8	879.4	881.0	889.9	880.6	894.6	875.2	釧路・根室(13)	1,100.2	1,136.9	1,091.8	1,121.3	1,126.9	1,116.7	1,123.9	1,113.5	1,117.4
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																																				
道央広域(70)	1,001.8	1,004.5	982.4	967.6	948.9	935.8	942.4	928.2	912.0	906.1																																																																				
道南(18)	1,062.6	1,075.3	1,059.3	1,064.1	1,064.5	1,055.3	1,083.4	1,102.9	1,082.0	1,059.4																																																																				
道北(41)	976.7	991.8	980.6	983.6	978.9	992.2	1,000.5	990.0	977.6	974.2																																																																				
オホーツク(18)	1,026.1	1,040.7	1,003.9	1,017.3	995.1	976.7	975.9	990.5	1,013.4	998.1																																																																				
十勝(19)	884.4	916.4	887.5	878.8	879.4	881.0	889.9	880.6	894.6	875.2																																																																				
釧路・根室(13)	1,100.2	1,136.9	1,091.8	1,121.3	1,126.9	1,116.7	1,123.9	1,113.5	1,117.4	1,127.1																																																																				
<p>個別指標 産業廃棄物の排出量 【2-個-②】</p> <p>【指標群設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の適正処理推進状況の把握</li> </ul> <p>【関連計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環型社会形成推進基本計画 (環境生活部)</li> </ul>	計画策定時の現状（基準年）	3,874 万 t（平成29年度）																																																																												
	実績	3,993 万 t（令和2年度）																																																																												
	目標数値等	3,750 万 t（令和6年度）																																																																												
	<p>【施策の基本的な方向性】 b 【施策の方向】 イ</p> <p><input type="checkbox"/> 産業廃棄物の排出事業者や処理業者に対し、監視・指導等を行うとともに、優良処理業者を育成し、適正処理を推進します。また、関係機関等との適切な役割分担のもと、PCB廃棄物などの有害廃棄物の適正処理を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 近年、横ばいで推移している。事業活動量が一定の水準で経過していると考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 目標の達成に向け、普及啓発事業の強化や多量排出事業者の実施状況報告を公表するなど産業廃棄物の排出量削減やリサイクルの取組を一層進める。</p>  <p>単位：万t/年</p> <p>※ 令和元年度から推計方法を変更</p> <p>○ 地域別に占める割合は、道央広域で36%、次いで十勝、釧路・根室が17%となっている。</p> <table border="1" data-bbox="446 1758 1404 1960"> <caption>(万t)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>1,552</td> <td>1,553</td> <td>1,542</td> <td>1,546</td> <td>1,536</td> <td>1,393</td> <td>1,582</td> <td>1,482</td> <td>1,832</td> <td>1,453</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>261</td> <td>185</td> <td>183</td> <td>183</td> <td>178</td> <td>182</td> <td>180</td> <td>191</td> <td>195</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>468</td> <td>418</td> <td>419</td> <td>417</td> <td>403</td> <td>430</td> <td>374</td> <td>418</td> <td>769</td> <td>422</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>328</td> <td>344</td> <td>330</td> <td>325</td> <td>318</td> <td>338</td> <td>331</td> <td>331</td> <td>358</td> <td>362</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>676</td> <td>701</td> <td>653</td> <td>647</td> <td>663</td> <td>700</td> <td>620</td> <td>714</td> <td>772</td> <td>777</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>660</td> <td>674</td> <td>631</td> <td>629</td> <td>636</td> <td>688</td> <td>788</td> <td>780</td> <td>739</td> <td>777</td> </tr> </tbody> </table>			H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	道央広域(70)	1,552	1,553	1,542	1,546	1,536	1,393	1,582	1,482	1,832	1,453	道南(18)	261	185	183	183	178	182	180	191	195	202	道北(41)	468	418	419	417	403	430	374	418	769	422	オホーツク(18)	328	344	330	325	318	338	331	331	358	362	十勝(19)	676	701	653	647	663	700	620	714	772	777	釧路・根室(13)	660	674	631	629	636	688	788	780	739
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																				
道央広域(70)	1,552	1,553	1,542	1,546	1,536	1,393	1,582	1,482	1,832	1,453																																																																				
道南(18)	261	185	183	183	178	182	180	191	195	202																																																																				
道北(41)	468	418	419	417	403	430	374	418	769	422																																																																				
オホーツク(18)	328	344	330	325	318	338	331	331	358	362																																																																				
十勝(19)	676	701	653	647	663	700	620	714	772	777																																																																				
釧路・根室(13)	660	674	631	629	636	688	788	780	739	777																																																																				



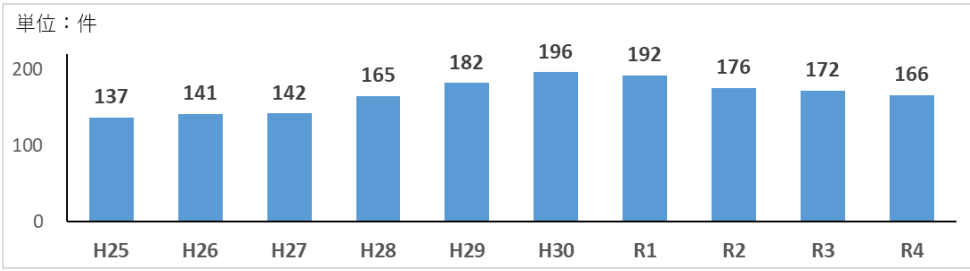
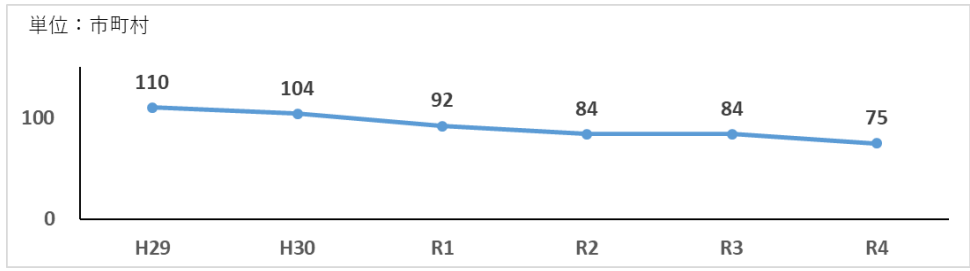
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																													
<b>個別指標</b> <b>一般廃棄物の</b> <b>リサイクル率</b> <b>【2-個-③】</b>  <b>【指標群設定の</b> <b>考え方】</b> ・循環資源の循環的 利用推進状況の把握  <b>【関連計画】</b> ・循環型社会形成 推進基本計画 （環境生活部）	計画策定時の現状（基準年）	24.3%（平成29年度）																																																																												
	実績	23.5%（令和3年度）																																																																												
	目標数値等	30%（令和6年度）																																																																												
	【施策の基本的な方向性】	a																																																																												
	【施策の方向】	ア																																																																												
	□ 3Rを推進するため、環境に配慮するライフスタイル・ビジネススタイルの定着に向けた普及啓発や、廃棄物の排出抑制・リサイクルに係る基盤整備を進めるほか、各種リサイクル法に基づき、個別分野のリサイクルを推進します。																																																																													
	【指標群の進捗状況等】																																																																													
	□ 基準年に対し微減後、横ばいで推移している。一般廃棄物の排出量が減少し、リサイクルの取組も進んでいるが、ここ数年は道内の自治体において新たに追加したリサイクル品目がなかったほか、近年の傾向として紙類の集団回収量が減少しリサイクル量も減少していることなどから、全体としては横ばいで推移している。なお、この傾向は全国的なものとなっている。																																																																													
	□ 引き続き、市町村が行うリサイクルに係る基盤整備の取組を支援するほか、プラスチック資源循環促進法によるプラスチック使用製品廃棄物のリサイクルの実施について、市町村に必要な助言を行うとともに、目標の達成に向け、再生可能な資源を利用した製品の購入や、資源ごみの分別排出、廃家電製品の適正なルールによる排出を促進するなどリサイクルの取組を一層進める。																																																																													
□ いずれの地域においても横ばい傾向。道央広域及び十勝圏域は高めの水準となっている。																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>24.6</td> <td>25.2</td> <td>26.2</td> <td>25.8</td> <td>25.9</td> <td>25.9</td> <td>25.4</td> <td>24.8</td> <td>25.4</td> <td>25.2</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>17.9</td> <td>18.0</td> <td>17.6</td> <td>17.6</td> <td>18.2</td> <td>18.3</td> <td>18.4</td> <td>15.9</td> <td>15.6</td> <td>15.8</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>23.0</td> <td>22.6</td> <td>23.0</td> <td>22.6</td> <td>22.7</td> <td>22.3</td> <td>22.4</td> <td>22.2</td> <td>21.7</td> <td>22.3</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>22.1</td> <td>21.7</td> <td>22.1</td> <td>21.3</td> <td>21.4</td> <td>22.0</td> <td>21.7</td> <td>21.4</td> <td>21.0</td> <td>20.9</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>26.4</td> <td>28.0</td> <td>27.8</td> <td>27.2</td> <td>27.0</td> <td>26.2</td> <td>25.6</td> <td>24.9</td> <td>24.8</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>22.3</td> <td>21.8</td> <td>22.3</td> <td>21.9</td> <td>21.1</td> <td>20.9</td> <td>20.6</td> <td>20.4</td> <td>20.2</td> <td>21.1</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	道央広域(70)	24.6	25.2	26.2	25.8	25.9	25.9	25.4	24.8	25.4	25.2	道南(18)	17.9	18.0	17.6	17.6	18.2	18.3	18.4	15.9	15.6	15.8	道北(41)	23.0	22.6	23.0	22.6	22.7	22.3	22.4	22.2	21.7	22.3	オホーツク(18)	22.1	21.7	22.1	21.3	21.4	22.0	21.7	21.4	21.0	20.9	十勝(19)	26.4	28.0	27.8	27.2	27.0	26.2	25.6	24.9	24.8	25.0	釧路・根室(13)	22.3	21.8	22.3	21.9	21.1	20.9	20.6	20.4	20.2	21.1	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																																				
道央広域(70)	24.6	25.2	26.2	25.8	25.9	25.9	25.4	24.8	25.4	25.2																																																																				
道南(18)	17.9	18.0	17.6	17.6	18.2	18.3	18.4	15.9	15.6	15.8																																																																				
道北(41)	23.0	22.6	23.0	22.6	22.7	22.3	22.4	22.2	21.7	22.3																																																																				
オホーツク(18)	22.1	21.7	22.1	21.3	21.4	22.0	21.7	21.4	21.0	20.9																																																																				
十勝(19)	26.4	28.0	27.8	27.2	27.0	26.2	25.6	24.9	24.8	25.0																																																																				
釧路・根室(13)	22.3	21.8	22.3	21.9	21.1	20.9	20.6	20.4	20.2	21.1																																																																				
<b>個別指標</b> <b>産業廃棄物の再生</b> <b>利用率</b> <b>【2-個-④】</b>  <b>【指標群設定の</b> <b>考え方】</b> ・循環資源の循環的 利用推進状況の把握  <b>【関連計画】</b> ・循環型社会形成 推進基本計画 （環境生活部）	計画策定時の現状（基準年）	55.5%（平成29年度）																																																																												
実績	61.5%（令和2年度）																																																																													
目標数値等	57.0%（令和6年度）																																																																													
【施策の基本的な方向性】	a																																																																													
【施策の方向】	ア																																																																													
□ 3Rを推進するため、環境に配慮するライフスタイル・ビジネススタイルの定着に向けた普及啓発や、廃棄物の排出抑制・リサイクルに係る基盤整備を進めるほか、各種リサイクル法に基づき、個別分野のリサイクルを推進します。																																																																														
【指標群の進捗状況等】																																																																														
□ 年によって多少増減はあるものの、概ねゆるやかな増加傾向であり、直近のデータでは目標を達成している。																																																																														
□ リサイクル関連産業の育成などを通じて、産業廃棄物の再生利用が進んだと思われる。																																																																														
□ 引き続き、循環資源利用促進税を活用するなどして再生利用率上昇に向けた取組を進める。																																																																														
※ 令和元年度から推計方法を変更																																																																														
□ 地域別に占める割合は、十勝で71.5%、オホーツクで69.3%となっている一方、道央広域で50.6%と低い状況となっている。。																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>36.4</td> <td>40.0</td> <td>40.7</td> <td>39.3</td> <td>40.9</td> <td>43.8</td> <td>44.7</td> <td>44.0</td> <td>28.8</td> <td>50.6</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>59.6</td> <td>57.7</td> <td>58.6</td> <td>57.3</td> <td>58.3</td> <td>57.6</td> <td>59.2</td> <td>59.7</td> <td>61.5</td> <td>65.1</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>62.1</td> <td>61.0</td> <td>61.3</td> <td>60.6</td> <td>61.2</td> <td>57.1</td> <td>64.2</td> <td>68.8</td> <td>78.1</td> <td>66.6</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>65.5</td> <td>67.3</td> <td>66.8</td> <td>66.8</td> <td>67.2</td> <td>68.0</td> <td>67.4</td> <td>67.7</td> <td>67.4</td> <td>69.3</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>67.2</td> <td>70.1</td> <td>69.5</td> <td>69.5</td> <td>69.9</td> <td>70.0</td> <td>69.6</td> <td>70.5</td> <td>70.6</td> <td>71.5</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>65.8</td> <td>68.6</td> <td>68.0</td> <td>67.6</td> <td>68.1</td> <td>62.0</td> <td>56.1</td> <td>56.5</td> <td>63.8</td> <td>64.6</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	道央広域(70)	36.4	40.0	40.7	39.3	40.9	43.8	44.7	44.0	28.8	50.6	道南(18)	59.6	57.7	58.6	57.3	58.3	57.6	59.2	59.7	61.5	65.1	道北(41)	62.1	61.0	61.3	60.6	61.2	57.1	64.2	68.8	78.1	66.6	オホーツク(18)	65.5	67.3	66.8	66.8	67.2	68.0	67.4	67.7	67.4	69.3	十勝(19)	67.2	70.1	69.5	69.5	69.9	70.0	69.6	70.5	70.6	71.5	釧路・根室(13)	65.8	68.6	68.0	67.6	68.1	62.0	56.1	56.5	63.8	64.6	
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																				
道央広域(70)	36.4	40.0	40.7	39.3	40.9	43.8	44.7	44.0	28.8	50.6																																																																				
道南(18)	59.6	57.7	58.6	57.3	58.3	57.6	59.2	59.7	61.5	65.1																																																																				
道北(41)	62.1	61.0	61.3	60.6	61.2	57.1	64.2	68.8	78.1	66.6																																																																				
オホーツク(18)	65.5	67.3	66.8	66.8	67.2	68.0	67.4	67.7	67.4	69.3																																																																				
十勝(19)	67.2	70.1	69.5	69.5	69.9	70.0	69.6	70.5	70.6	71.5																																																																				
釧路・根室(13)	65.8	68.6	68.0	67.6	68.1	62.0	56.1	56.5	63.8	64.6																																																																				

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																																													
<p>補足データ 資源生産性 【2-補-①】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・循環資源の循環的利用推進状況の把握</p> <p>【関連計画】 ・循環型社会形成推進基本計画（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア <input type="checkbox"/> 3Rを推進するため、環境に配慮するライフスタイル・ビジネススタイルの定着に向けた普及啓発や、廃棄物の排出抑制・リサイクルに係る基盤整備を進めるほか、各種リサイクル法に基づき、個別分野のリサイクルを推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 平成19年度から横ばいの状況。 本指標は道内総生産/天然資源等投入量で算出されるが、経済活動の大きな変動がなく、各数値について変動が少ないためと思われる。 ※北海道循環型社会形成推進基本計画の改定に併せて算定。</p> <div data-bbox="443 595 1412 857"> <p>単位：万円/t</p> <table border="1"> <caption>資源生産性 (単位：万円/t)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>13.1</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>13.3</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>13.9</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>※ 資源生産性 産業や人々の生活がいかに物を有効に利用しているかを示すもの。天然資源等はその有限性や採取に伴う環境負荷が生じること、またそれらが最終的には廃棄物となることから、より少ない投入量で効率的に道内総生産を生み出すことが望まれる。 計算式：道内総生産 ÷ 天然資源等投入量</p>	年度	値	H19	13.1	H24	13.3	H29	13.9																																																																																					
年度	値																																																																																													
H19	13.1																																																																																													
H24	13.3																																																																																													
H29	13.9																																																																																													
<p>補足データ 廃棄物系バイオマスの種別ごとの発生量及び利活用量 【2-補-②】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・バイオマスの利活用推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・バイオマス活用推進計画（経済部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 ウ <input type="checkbox"/> 「北海道バイオマス活用推進計画」に基づき、市町村などの取組を促進するとともに、利活用システムの構築や施設整備を支援します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 ※ 指標（2一指-③）「廃棄物系バイオマス利活用率」の内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>発生量</th> <th>利活用仕向量</th> <th>利活用率</th> <th>(参考) R1利活用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">一般廃棄物</td> <td>紙類（一般廃棄物）</td> <td>425,256</td> <td>223,839</td> <td>52.6%</td> <td>53.1%</td> </tr> <tr> <td>  集团回収・業者回収</td> <td>223,839</td> <td>223,839</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>  資源ごみ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  可燃・不燃・混合</td> <td>201,417</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>生活系・事業系生ごみ</td> <td>21,446</td> <td>2,208</td> <td>10.3%</td> <td>10.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>し尿等</td> <td>7,388</td> <td>1,164</td> <td>15.8%</td> <td>19.6%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小 計</td> <td>454,090</td> <td>227,211</td> <td>50.0%</td> <td>50.4%</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">産業廃棄物</td> <td>有機性汚泥</td> <td>116,720</td> <td>113,908</td> <td>97.6%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>下水汚泥</td> <td>43,642</td> <td>39,782</td> <td>91.2%</td> <td>87.6%</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>2,828</td> <td>1,608</td> <td>56.9%</td> <td>56.9%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>285,698</td> <td>279,080</td> <td>97.7%</td> <td>93.0%</td> </tr> <tr> <td>動植物性残さ（食料品）</td> <td>39,236</td> <td>39,236</td> <td>100.0%</td> <td>94.5%</td> </tr> <tr> <td>家畜ふん尿</td> <td>1,288,696</td> <td>1,288,696</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小 計</td> <td>1,776,820</td> <td>1,762,310</td> <td>99.2%</td> <td>95.6%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>黒 液</td> <td>466,133</td> <td>466,133</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>廃棄物系バイオマス計</td> <td>2,697,043</td> <td>2,455,654</td> <td>91.1%</td> <td>91.2%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	種類	発生量	利活用仕向量	利活用率	(参考) R1利活用率	一般廃棄物	紙類（一般廃棄物）	425,256	223,839	52.6%	53.1%	集团回収・業者回収	223,839	223,839	100.0%	100.0%	資源ごみ					可燃・不燃・混合	201,417	0	0.0%	0.0%	生活系・事業系生ごみ	21,446	2,208	10.3%	10.2%		し尿等	7,388	1,164	15.8%	19.6%		小 計	454,090	227,211	50.0%	50.4%	産業廃棄物	有機性汚泥	116,720	113,908	97.6%	100.0%	下水汚泥	43,642	39,782	91.2%	87.6%	紙くず	2,828	1,608	56.9%	56.9%	木くず	285,698	279,080	97.7%	93.0%	動植物性残さ（食料品）	39,236	39,236	100.0%	94.5%	家畜ふん尿	1,288,696	1,288,696	100.0%	100.0%		小 計	1,776,820	1,762,310	99.2%	95.6%		黒 液	466,133	466,133	100.0%	100.0%		廃棄物系バイオマス計	2,697,043	2,455,654	91.1%	91.2%
区分	種類	発生量	利活用仕向量	利活用率	(参考) R1利活用率																																																																																									
一般廃棄物	紙類（一般廃棄物）	425,256	223,839	52.6%	53.1%																																																																																									
	集团回収・業者回収	223,839	223,839	100.0%	100.0%																																																																																									
	資源ごみ																																																																																													
	可燃・不燃・混合	201,417	0	0.0%	0.0%																																																																																									
	生活系・事業系生ごみ	21,446	2,208	10.3%	10.2%																																																																																									
	し尿等	7,388	1,164	15.8%	19.6%																																																																																									
	小 計	454,090	227,211	50.0%	50.4%																																																																																									
産業廃棄物	有機性汚泥	116,720	113,908	97.6%	100.0%																																																																																									
	下水汚泥	43,642	39,782	91.2%	87.6%																																																																																									
	紙くず	2,828	1,608	56.9%	56.9%																																																																																									
	木くず	285,698	279,080	97.7%	93.0%																																																																																									
	動植物性残さ（食料品）	39,236	39,236	100.0%	94.5%																																																																																									
	家畜ふん尿	1,288,696	1,288,696	100.0%	100.0%																																																																																									
	小 計	1,776,820	1,762,310	99.2%	95.6%																																																																																									
	黒 液	466,133	466,133	100.0%	100.0%																																																																																									
	廃棄物系バイオマス計	2,697,043	2,455,654	91.1%	91.2%																																																																																									



指標群名称 【指標等No.】	内 容																																								
<p>補足データ 未利用バイオマスの 種別ごとの発生量 及び利活用量 【2-補-③】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・バイオマスの利 活用推進状況の 把握</p> <p>【個別計画】 ・バイオマス活用 推進計画（経済 部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 u □ 「北海道バイオマス活用推進計画」に基づき、市町村などの取組を促進するとともに、利活用システムの構築や施設整備を支援します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 ※ 指標（2-指-④）「未利用バイオマス利活用率」の内訳</p> <p>【令和2年度】 (単位：トン)</p> <table border="1" data-bbox="438 548 1412 896"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>発生量</th> <th>利活用 仕向量</th> <th>利活用率</th> <th>(参考) R1利活用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">未 利 用</td> <td>農作物非食部</td> <td>441,576</td> <td>390,642</td> <td>88.5%</td> <td>90.3%</td> </tr> <tr> <td>  稲わら</td> <td>167,337</td> <td>151,070</td> <td>90.3%</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td>  もみ殻</td> <td>43,109</td> <td>27,513</td> <td>63.8%</td> <td>65.9%</td> </tr> <tr> <td>  麦かん</td> <td>231,130</td> <td>212,059</td> <td>91.7%</td> <td>95.2%</td> </tr> <tr> <td>林地残材</td> <td>317,544</td> <td>219,798</td> <td>69.2%</td> <td>60.8%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">未利用バイオマス 計</td> <td>759,120</td> <td>610,440</td> <td>80.4%</td> <td>77.9%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	種類	発生量	利活用 仕向量	利活用率	(参考) R1利活用率	未 利 用	農作物非食部	441,576	390,642	88.5%	90.3%	稲わら	167,337	151,070	90.3%	89.6%	もみ殻	43,109	27,513	63.8%	65.9%	麦かん	231,130	212,059	91.7%	95.2%	林地残材	317,544	219,798	69.2%	60.8%	未利用バイオマス 計		759,120	610,440	80.4%	77.9%		
区分	種類	発生量	利活用 仕向量	利活用率	(参考) R1利活用率																																				
未 利 用	農作物非食部	441,576	390,642	88.5%	90.3%																																				
	稲わら	167,337	151,070	90.3%	89.6%																																				
	もみ殻	43,109	27,513	63.8%	65.9%																																				
	麦かん	231,130	212,059	91.7%	95.2%																																				
	林地残材	317,544	219,798	69.2%	60.8%																																				
未利用バイオマス 計		759,120	610,440	80.4%	77.9%																																				
<p>補足データ バイオガスプラント 施設数 【2-補-④】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・バイオマスの利 活用推進状況の 把握</p> <p>【個別計画】 ・バイオマス活用 推進計画（経済 部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 u □ 「北海道バイオマス活用推進計画」に基づき、市町村などの取組を促進するとともに、利活用システムの構築や施設整備を支援します。</p> <p>単位：基</p>  <table border="1" data-bbox="446 1120 1412 1377"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>農業・畜産系</th> <th>都市廃棄物系</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H26</td><td>58</td><td>35</td><td>93</td></tr> <tr><td>H27</td><td>65</td><td>34</td><td>99</td></tr> <tr><td>H28</td><td>83</td><td>34</td><td>117</td></tr> <tr><td>H29</td><td>92</td><td>45</td><td>137</td></tr> <tr><td>H30</td><td>96</td><td>43</td><td>139</td></tr> <tr><td>R1</td><td>101</td><td>44</td><td>145</td></tr> <tr><td>R2</td><td>101</td><td>44</td><td>145</td></tr> <tr><td>R3</td><td>100</td><td>42</td><td>142</td></tr> <tr><td>R4</td><td>100</td><td>42</td><td>142</td></tr> </tbody> </table>	年度	農業・畜産系	都市廃棄物系	合計	H26	58	35	93	H27	65	34	99	H28	83	34	117	H29	92	45	137	H30	96	43	139	R1	101	44	145	R2	101	44	145	R3	100	42	142	R4	100	42	142
年度	農業・畜産系	都市廃棄物系	合計																																						
H26	58	35	93																																						
H27	65	34	99																																						
H28	83	34	117																																						
H29	92	45	137																																						
H30	96	43	139																																						
R1	101	44	145																																						
R2	101	44	145																																						
R3	100	42	142																																						
R4	100	42	142																																						

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																		
<p>補足データ バイオマス活用推進 計画等策定市町村数 【2-補-⑤】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマスの利 活用推進状況の 把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマス活用 推進計画（経済 部）</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 ウ</p> <p><input type="checkbox"/> 「北海道バイオマス活用推進計画」に基づき、市町村などの取組を促進するとともに、利活用システムの構築や施設整備を支援します。</p> <div data-bbox="438 443 1404 705"> <p>単位：市町村</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr><th>数</th><td>44</td><td>45</td><td>49</td><td>51</td><td>54</td><td>54</td><td>54</td><td>55</td><td>56</td></tr> </table> </div> <p>地域別では、十勝管内全市町村が共同でバイオマス産業都市構想を策定したため、十勝の計画策定市町村数が多くなっている。</p> <p>補足データ：R4バイオマス活用推進計画等策定市町村数</p> <table border="1"> <tr> <th>道央広域(70)</th> <th>道南(18)</th> <th>道北(41)</th> <th>オホーツク(18)</th> <th>十勝(19)</th> <th>釧路・根室(13)</th> <th>合計(179)</th> </tr> <tr> <td>10</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>5</td> <td>56</td> </tr> </table> <p>※カッコ内は圏域の市町村数</p>	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	数	44	45	49	51	54	54	54	55	56	道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)	合計(179)	10	5	8	9	19	5	56
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																										
数	44	45	49	51	54	54	54	55	56																										
道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)	合計(179)																													
10	5	8	9	19	5	56																													
<p>補足データ 産業廃棄物処理業者 の優良認定業者数 【2-補-⑥】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の適正処 理推進状況の把 握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>循環型社会形成 推進基本計画 (環境生活部)</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 b 【施策の方向】 イ</p> <p><input type="checkbox"/> 産業廃棄物の排出事業者や処理業者に対し、監視・指導等を行うとともに、優良処理業者を育成し、適正処理を推進します。また、関係機関等との適切な役割分担のもと、PCB廃棄物などの有害廃棄物の適正処理を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 近年、横ばいであったが、令和3年度は増加している。制度のPR等により増加したものと推察される。</p> <p><input type="checkbox"/> 引き続き、北海道循環型社会形成推進基本計画、北海道廃棄物処理計画に沿って優良認定業者の増加に向けた取組を進める。</p> <div data-bbox="438 1411 1404 1668"> <p>単位：者</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td></tr> <tr><th>数</th><td>22</td><td>28</td><td>36</td><td>42</td><td>46</td><td>47</td><td>60</td><td>60</td><td>61</td><td>73</td></tr> </table> </div>	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	数	22	28	36	42	46	47	60	60	61	73												
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																									
数	22	28	36	42	46	47	60	60	61	73																									

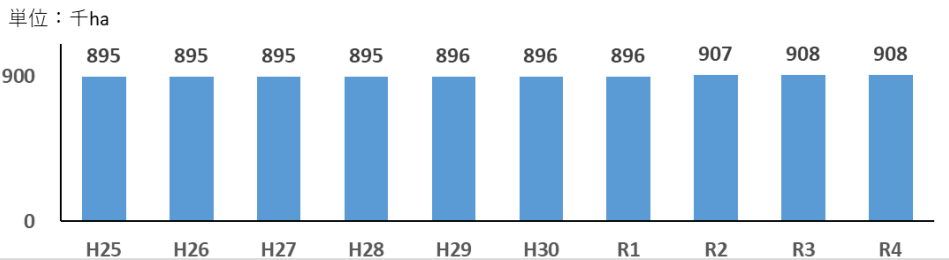
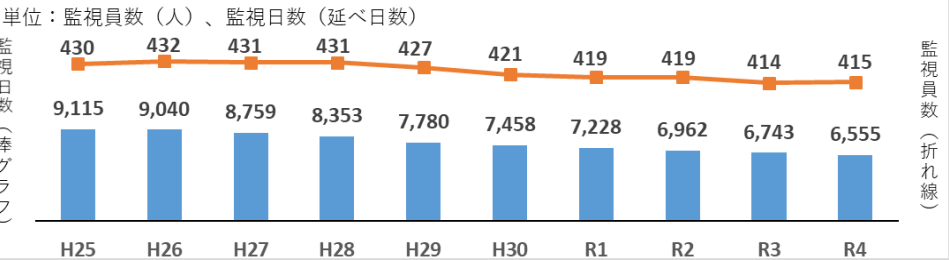
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																	
<p>補足データ 認定リサイクル製品数 【2-補-⑦】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・循環型社会ビジネス市場拡大状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・循環型社会形成推進基本計画（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 d</p> <p>【施策の方向】 工</p> <p><input type="checkbox"/> リサイクル関連産業の創出・育成や再生品の利用拡大・生産拡大の促進などにより、循環型社会ビジネスの振興を図ります。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 平成30年度までは増加傾向、令和元年度以降は減少傾向。 令和4年度に減少した原因は、1事業者の製品が複数失効したため。</p> <p><input type="checkbox"/> 循環型社会ビジネスの振興を図るため、ホームページや展示会等により北海道認定リサイクル製品や認定制度等の普及啓発に努める。</p>  <p>単位：件</p>																																																	
<p>補足データ グリーン購入の全庁的実施市町村数 【2-補-⑧】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・循環型社会ビジネス市場拡大状況の把握</p> <p>【関連計画】 ・ -（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 d</p> <p>【施策の方向】 工</p> <p><input type="checkbox"/> リサイクル関連産業の創出・育成や再生品の利用拡大・生産拡大の促進などにより、循環型社会ビジネスの振興を図ります。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> ここ数年減少傾向となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 北海道グリーン購入基本方針に基づき、道が率先してグリーン購入を推進することにより、市町村におけるグリーン購入の必要性を喚起するとともに、グリーン購入法の趣旨に沿って啓発を行うなど、市町村におけるグリーン購入の促進に取り組む。</p>  <p>単位：市町村</p>																																																	
	<p><input type="checkbox"/> 全圏域でここ数年減少傾向が続いており、令和4年度も前年度と比べて微減で推移している。</p> <p><input type="checkbox"/> 環境物品等調達方針を作成し、グリーン購入の推進を図る。</p> <p style="text-align: right;">（単位：市町村数）</p> <table border="1" data-bbox="454 1657 1396 1904"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>43</td> <td>37</td> <td>34</td> <td>31</td> <td>32</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>26</td> <td>24</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※カッコ内は圏域の市町村数</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域(70)	43	37	34	31	32	30	道南(18)	13	13	11	10	10	9	道北(41)	26	24	19	18	17	15	オホーツク(18)	8	7	6	5	5	4	十勝(19)	10	11	11	9	10	8	釧路・根室(13)	10	12	11	11	10	9
	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																												
道央広域(70)	43	37	34	31	32	30																																												
道南(18)	13	13	11	10	10	9																																												
道北(41)	26	24	19	18	17	15																																												
オホーツク(18)	8	7	6	5	5	4																																												
十勝(19)	10	11	11	9	10	8																																												
釧路・根室(13)	10	12	11	11	10	9																																												

## II 関連指標群の状況

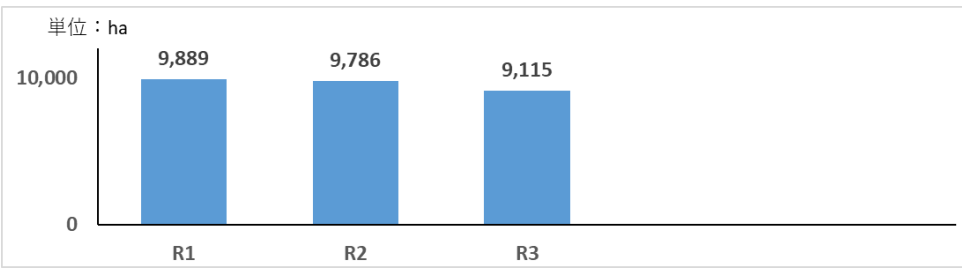
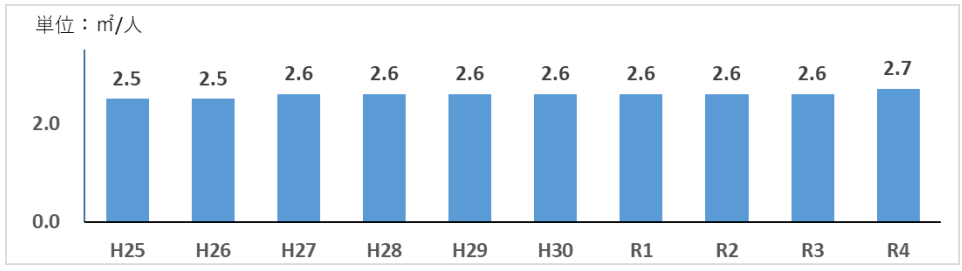
### 3 自然との共生を基本とした環境の保全と創造

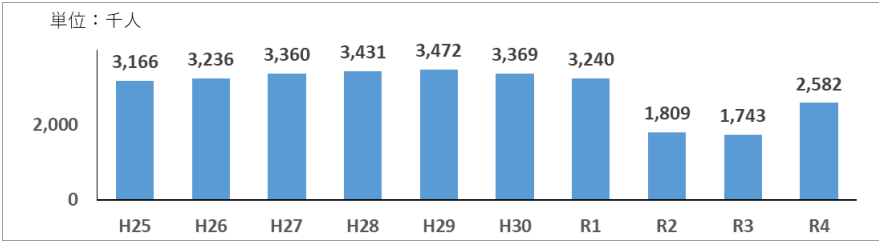
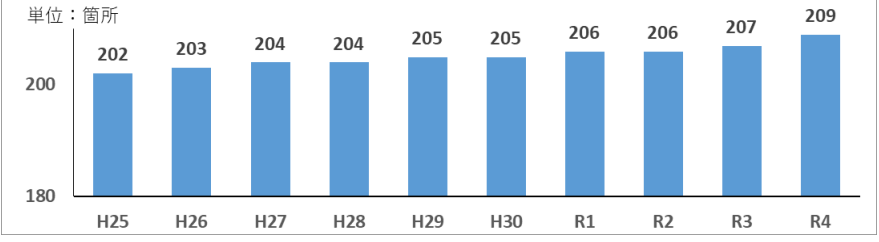
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																													
<b>個別指標</b> 犬・ねこの安楽 殺処分頭数 【3-個-①】  <b>【指標群設定の                      考え方】</b> ・動物愛護精神の 普及状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・動物愛護管理推 進計画（環境生 活部）	計画策定時の現状（基準年）	1,158 頭（平成 28 年度）																																																																												
	実績	119 頭（令和 4 年度）																																																																												
	目標数値等	579 頭（令和 9 年度）																																																																												
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> f <b>【施策の方向】</b> ウ（ウ） <input type="checkbox"/> 本道に適した動物愛護管理センターの体制を構築し、「動物愛護管理推進計画」に基づき、動物愛護に関する普及啓発、特定動物の飼養者による動物の適正管理、一般家庭における動物の適正飼養などの取組を推進します。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 重傷等の理由で安楽殺処分となるものや、保管中に死亡となる犬・猫が一定数存在するものの、目標は大きく達成された。 積極的な譲渡活動や動物愛護団体等の協力が主な要因と考えられる。 <input type="checkbox"/> 現状の水準を維持するため、引き続き、動物愛護思想の普及啓発等に取り組む。																																																																													
	単位：頭 																																																																													
<input type="checkbox"/> 全圏域で基準年度（平成28年度）から大きく安楽殺処分頭数を減らすことに成功しており、近年は下げ止まっている。 重傷等の理由で安楽殺処分となるものや、保管中に死亡となるものを含んでおり、これらに該当する犬・猫が一定数は必ず存在するため。																																																																														
(単位：頭) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域 (70)</td> <td>1,540</td> <td>1,268</td> <td>698</td> <td>260</td> <td>119</td> <td>68</td> <td>80</td> <td>43</td> <td>50</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>道南 (18)</td> <td>494</td> <td>340</td> <td>405</td> <td>335</td> <td>167</td> <td>133</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>24</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>道北 (41)</td> <td>389</td> <td>297</td> <td>227</td> <td>236</td> <td>101</td> <td>64</td> <td>61</td> <td>44</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>オホーツク (18)</td> <td>126</td> <td>110</td> <td>46</td> <td>73</td> <td>132</td> <td>53</td> <td>28</td> <td>34</td> <td>13</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>十勝 (19)</td> <td>245</td> <td>221</td> <td>178</td> <td>186</td> <td>136</td> <td>85</td> <td>55</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室 (13)</td> <td>266</td> <td>117</td> <td>92</td> <td>68</td> <td>53</td> <td>40</td> <td>55</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域 (70)	1,540	1,268	698	260	119	68	80	43	50	39	道南 (18)	494	340	405	335	167	133	25	37	24	23	道北 (41)	389	297	227	236	101	64	61	44	28	28	オホーツク (18)	126	110	46	73	132	53	28	34	13	10	十勝 (19)	245	221	178	186	136	85	55	32	33	13	釧路・根室 (13)	266	117	92	68	53	40	55	27	9	6
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																				
道央広域 (70)	1,540	1,268	698	260	119	68	80	43	50	39																																																																				
道南 (18)	494	340	405	335	167	133	25	37	24	23																																																																				
道北 (41)	389	297	227	236	101	64	61	44	28	28																																																																				
オホーツク (18)	126	110	46	73	132	53	28	34	13	10																																																																				
十勝 (19)	245	221	178	186	136	85	55	32	33	13																																																																				
釧路・根室 (13)	266	117	92	68	53	40	55	27	9	6																																																																				
<b>個別指標</b> エゾシカ個体数指数 （東部地域） 【3-個-②】  <b>【指標群設定の                      考え方】</b> ・エゾシカの適正 な保護管理推進 状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・エゾシカ管理計 画（環境生活 部）	計画策定時の現状（基準年）	100（平成 23 年度）																																																																												
	実績	137（令和 4 年度）																																																																												
	目標数値等	50 以下（令和 8 年度）																																																																												
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> h <b>【施策の方向】</b> エ（ウ） <input type="checkbox"/> 「エゾシカ管理計画」に基づき、人とエゾシカとの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、個体数管理や有効活用などの総合的な対策に取り組みます。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 平成24年度以降は減少に転じたが、平成29年度頃から再び増加に転じ、令和4年度の個体数指数は過去最高に達した可能性がある。 個体数の減少に効果的なメスジカ捕獲数が目標に達していないことが要因と考えられる。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、エゾシカ捕獲推進プランの目標捕獲数を積み増しするとともに、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRし、捕獲推進を図る。また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施する。																																																																													

指標群名称 【指標等No.】	内 容																												
個別指標 エゾシカ個体数指数 (北部地域) 【3-個-③】  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・エゾシカの適正な保護管理推進状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・エゾシカ管理計画(環境生活部)	計画策定時の現状(基準年)	100(平成23年度)																											
	実績	121(令和4年度)																											
	目標数値等	50以下(令和13年度)																											
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> h <b>【施策の方向】</b> エ(ウ) <input type="checkbox"/> 「エゾシカ管理計画」に基づき、人とエゾシカとの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、個体数管理や有効活用などの総合的な対策に取り組みます。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 平成24年度以降は減少に転じたが、平成26年度頃から再び増加に転じた。個体数の減少に効果的なメスジカ捕獲数が目標に達していないことが要因と考えられる。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、エゾシカ捕獲推進プランの目標捕獲数を積み増しするとともに、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRし、捕獲推進を図る。また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施する。 <div data-bbox="443 779 1412 1041" style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <caption>エゾシカ個体数指数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>指標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>100</td></tr> <tr><td>H24</td><td>93</td></tr> <tr><td>H25</td><td>88</td></tr> <tr><td>H26</td><td>89</td></tr> <tr><td>H27</td><td>90</td></tr> <tr><td>H28</td><td>92</td></tr> <tr><td>H29</td><td>93</td></tr> <tr><td>H30</td><td>94</td></tr> <tr><td>R1</td><td>100</td></tr> <tr><td>R2</td><td>108</td></tr> <tr><td>R3</td><td>115</td></tr> <tr><td>R4</td><td>121</td></tr> <tr><td>R13 目標</td><td>50</td></tr> </tbody> </table> </div>		年度	指標値	H23	100	H24	93	H25	88	H26	89	H27	90	H28	92	H29	93	H30	94	R1	100	R2	108	R3	115	R4	121	R13 目標
年度	指標値																												
H23	100																												
H24	93																												
H25	88																												
H26	89																												
H27	90																												
H28	92																												
H29	93																												
H30	94																												
R1	100																												
R2	108																												
R3	115																												
R4	121																												
R13 目標	50																												
個別指標 エゾシカ個体数指数 (中部地域) 【3-個-④】  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・エゾシカの適正な保護管理推進状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・エゾシカ管理計画(環境生活部)	計画策定時の現状(基準年)	100(平成23年度)																											
	実績	107(令和4年度)																											
	目標数値等	50以下(令和13年度)																											
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> h <b>【施策の方向】</b> エ(ウ) <input type="checkbox"/> 「エゾシカ管理計画」に基づき、人とエゾシカとの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、個体数管理や有効活用などの総合的な対策に取り組みます。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 平成23年度以降は減少に転じたが、平成28年度頃から再び増加に転じた。個体数の減少に効果的なメスジカ捕獲数が目標に達していないことが要因と考えられる。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、エゾシカ捕獲推進プランの目標捕獲数を積み増しするとともに、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRし、捕獲推進を図る。また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施する。 <div data-bbox="443 1615 1412 1877" style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <caption>エゾシカ個体数指数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>指標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>100</td></tr> <tr><td>H24</td><td>91</td></tr> <tr><td>H25</td><td>86</td></tr> <tr><td>H26</td><td>81</td></tr> <tr><td>H27</td><td>78</td></tr> <tr><td>H28</td><td>79</td></tr> <tr><td>H29</td><td>82</td></tr> <tr><td>H30</td><td>83</td></tr> <tr><td>R1</td><td>89</td></tr> <tr><td>R2</td><td>97</td></tr> <tr><td>R3</td><td>104</td></tr> <tr><td>R4</td><td>107</td></tr> <tr><td>R13 目標</td><td>50</td></tr> </tbody> </table> </div>		年度	指標値	H23	100	H24	91	H25	86	H26	81	H27	78	H28	79	H29	82	H30	83	R1	89	R2	97	R3	104	R4	107	R13 目標
年度	指標値																												
H23	100																												
H24	91																												
H25	86																												
H26	81																												
H27	78																												
H28	79																												
H29	82																												
H30	83																												
R1	89																												
R2	97																												
R3	104																												
R4	107																												
R13 目標	50																												

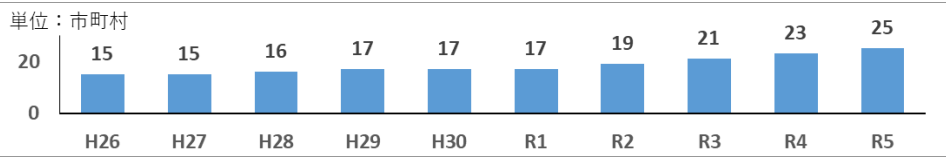
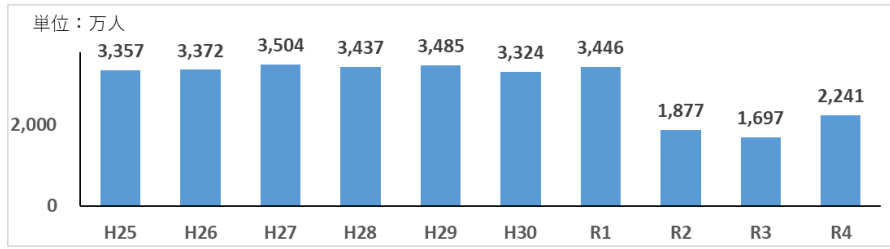
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																								
<p>補足データ すぐれた自然地域の面積 【3-補-①】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・すぐれた自然の保全状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・一（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア（ア） <input type="checkbox"/> すぐれた自然環境の保全を図るため、「北海道自然環境等保全条例」に基づき、道自然環境保全地域等の指定や自然公園にかかる公園計画の見直しを進めるとともに、保護地域の適切な管理や監視等を行います。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 令和4年度のすぐれた自然地域の面積は908千haとなっており、前年度から変更なし。</p> <p>単位：千ha</p>  <p>※ 自然公園（国立、国定、道立）、（原生）自然環境保全地域、道自然環境保全地域、自然景観保護地区、学術自然保護地区の面積の合計</p>																																																								
<p>補足データ 自然保護監視員等の人数と監視延べ日数 【3-補-②】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・すぐれた自然の保全状況の把握</p> <p>【関連計画】 ・生物多様性保全計画（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 a 【施策の方向】 ア（ア） <input type="checkbox"/> すぐれた自然環境の保全を図るため、「北海道自然環境等保全条例」に基づき、道自然環境保全地域等の指定や自然公園にかかる公園計画の見直しを進めるとともに、保護地域の適切な管理や監視等を行います。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 令和4年度 of 自然保護監視員等の人数は415人となっており、令和3年度より1人増えたが、高齢化により退任される監視員がいる一方、新たな担い手は少なく、平成23年度をピークに減少傾向となっている。 併せて、令和4年度の自然保護監視延べ日数は6,555日となっており、平成23年度をピークに減少傾向となっている。 <input type="checkbox"/> 引き続き、効率的な監視活動に努める。</p> <p>単位：監視員数（人）、監視日数（延べ日数）</p>  <p><input type="checkbox"/> 自然保護監視延べ日数は減少傾向となっている。</p>																																																								
	<p style="text-align: right;">（単位：万人）</p> <table border="1" data-bbox="446 1691 1412 1971"> <thead> <tr> <th>&lt;人数&gt;</th> <th>道央広域(70)</th> <th>道南(18)</th> <th>道北(41)</th> <th>オホーツク(18)</th> <th>十勝(19)</th> <th>釧路・根室(13)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>139</td> <td>55</td> <td>77</td> <td>62</td> <td>42</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>140</td> <td>51</td> <td>77</td> <td>61</td> <td>41</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>140</td> <td>51</td> <td>77</td> <td>62</td> <td>41</td> <td>44</td> </tr> <tr> <th>&lt;延べ日数&gt;</th> <th>道央広域(70)</th> <th>道南(18)</th> <th>道北(41)</th> <th>オホーツク(18)</th> <th>十勝(19)</th> <th>釧路・根室(13)</th> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>2,443</td> <td>790</td> <td>1,437</td> <td>838</td> <td>649</td> <td>805</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>2,369</td> <td>758</td> <td>1,394</td> <td>812</td> <td>629</td> <td>781</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>2,300</td> <td>736</td> <td>1,353</td> <td>791</td> <td>614</td> <td>761</td> </tr> </tbody> </table>	<人数>	道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)	令和2年度	139	55	77	62	42	44	令和3年度	140	51	77	61	41	44	令和4年度	140	51	77	62	41	44	<延べ日数>	道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)	令和2年度	2,443	790	1,437	838	649	805	令和3年度	2,369	758	1,394	812	629	781	令和4年度	2,300	736	1,353	791	614	761
<人数>	道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)																																																			
令和2年度	139	55	77	62	42	44																																																			
令和3年度	140	51	77	61	41	44																																																			
令和4年度	140	51	77	62	41	44																																																			
<延べ日数>	道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)																																																			
令和2年度	2,443	790	1,437	838	649	805																																																			
令和3年度	2,369	758	1,394	812	629	781																																																			
令和4年度	2,300	736	1,353	791	614	761																																																			

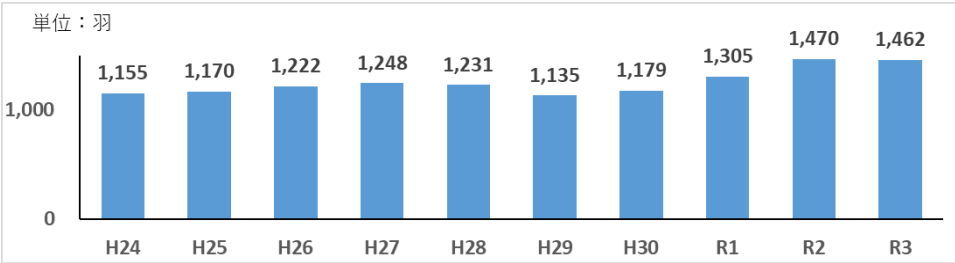
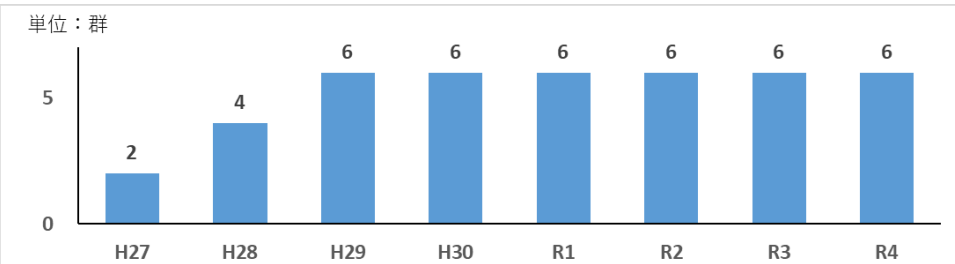


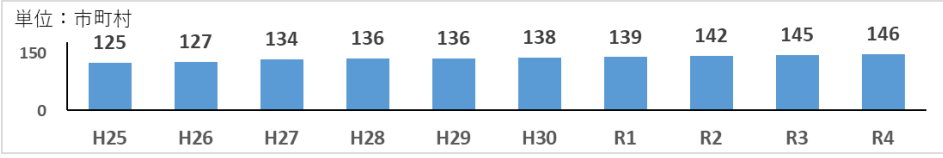
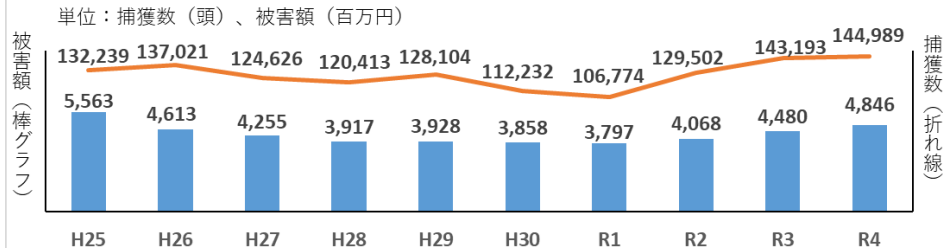
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																																																			
<p>補足データ 植林面積 【3-補-③】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・環境保全機能の維持増進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・森林づくり基本画 (水産林務部)</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 b</p> <p>【施策の方向】 ア(イ)</p> <p><input type="checkbox"/> 「森林づくり基本計画」に基づき、地域の特性に応じた森林づくりを進めるため、発揮を期待する機能に応じて森林を区分し、計画的な森林の整備・保全を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 道内における植林面積は、令和2年度は9,786haであったが、労務単価や苗木単価高騰などの影響により、令和3年度は9,115haとやや減少した。</p> <p><input type="checkbox"/> 今後は、令和3年度に創設した「豊かな森づくり推進事業」により、市町村と協調して森林所有者が計画的に行う植林に支援するとともに、伐採後の着実な植林に向け、植栽本数の低減、機械利用の促進、植林等作業の省力化・効率化などの取組を推進。</p>  <p>単位：ha</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>植林面積 (ha)</th></tr> <tr><td>R1</td><td>9,889</td></tr> <tr><td>R2</td><td>9,786</td></tr> <tr><td>R3</td><td>9,115</td></tr> </table>	年度	植林面積 (ha)	R1	9,889	R2	9,786	R3	9,115																																																																																											
年度	植林面積 (ha)																																																																																																			
R1	9,889																																																																																																			
R2	9,786																																																																																																			
R3	9,115																																																																																																			
<p>補足データ 一人当たり 広域公園面積 【3-補-④】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・身近な自然とのふれあいづくりの推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・— (建設部)</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c</p> <p>【施策の方向】 ア(ウ)</p> <p><input type="checkbox"/> 自然の連続性などみどりのネットワーク形成や自然環境・生態系に配慮して、身近なみどりの保全・回復・創造を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 令和4年度については、人口減少により、令和3年度より1人当たり面積が増加となった。</p> <p>令和4年度の増加した要因については、広域公園の面積に変更はないが、人口減少により、一人当たりの広域公園面積が増加となった。</p> <p><input type="checkbox"/> 広域公園の整備・維持管理・更新に必要な予算要望を行い、公園面積の保全に取り組む。</p>  <p>単位：㎡/人</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>一人当たり広域公園面積 (㎡/人)</th></tr> <tr><td>H25</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>H26</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>H27</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>H28</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>H29</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>R2</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>R4</td><td>2.7</td></tr> </table> <p><input type="checkbox"/> 令和4年度については、全県域で人口減少により、令和3年度より1人当たり面積が増加となった。</p> <p>令和4年度の増加した要因については、広域公園の面積の変更はないが、各圏域の人口減少により、一人当たりの広域公園面積が増加となった。</p> <p style="text-align: right;">(単位：㎡)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>2.6</td> <td>2.6</td> <td>2.6</td> <td>2.7</td> <td>2.7</td> <td>2.7</td> <td>2.8</td> <td>2.8</td> <td>2.9</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.1</td> <td>2.1</td> <td>2.1</td> <td>2.1</td> <td>2.1</td> <td>2.2</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>5.5</td> <td>5.5</td> <td>5.6</td> <td>5.6</td> <td>5.7</td> <td>5.8</td> <td>5.8</td> <td>5.9</td> <td>6.0</td> <td>6.1</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>4.1</td> <td>4.1</td> <td>4.1</td> <td>4.1</td> <td>4.1</td> <td>4.2</td> <td>4.2</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td>1.8</td> <td>1.8</td> <td>1.8</td> <td>1.9</td> </tr> </tbody> </table>	年度	一人当たり広域公園面積 (㎡/人)	H25	2.5	H26	2.5	H27	2.6	H28	2.6	H29	2.6	H30	2.6	R1	2.6	R2	2.6	R3	2.6	R4	2.7		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域(70)	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	道南(18)	2.6	2.6	2.6	2.7	2.7	2.7	2.8	2.8	2.9	2.9	道北(41)	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	オホーツク(18)	5.5	5.5	5.6	5.6	5.7	5.8	5.8	5.9	6.0	6.1	十勝(19)	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	釧路・根室(13)	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	1.9
年度	一人当たり広域公園面積 (㎡/人)																																																																																																			
H25	2.5																																																																																																			
H26	2.5																																																																																																			
H27	2.6																																																																																																			
H28	2.6																																																																																																			
H29	2.6																																																																																																			
H30	2.6																																																																																																			
R1	2.6																																																																																																			
R2	2.6																																																																																																			
R3	2.6																																																																																																			
R4	2.7																																																																																																			
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																										
道央広域(70)	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4																																																																																										
道南(18)	2.6	2.6	2.6	2.7	2.7	2.7	2.8	2.8	2.9	2.9																																																																																										
道北(41)	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2																																																																																										
オホーツク(18)	5.5	5.5	5.6	5.6	5.7	5.8	5.8	5.9	6.0	6.1																																																																																										
十勝(19)	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2																																																																																										
釧路・根室(13)	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	1.9																																																																																										

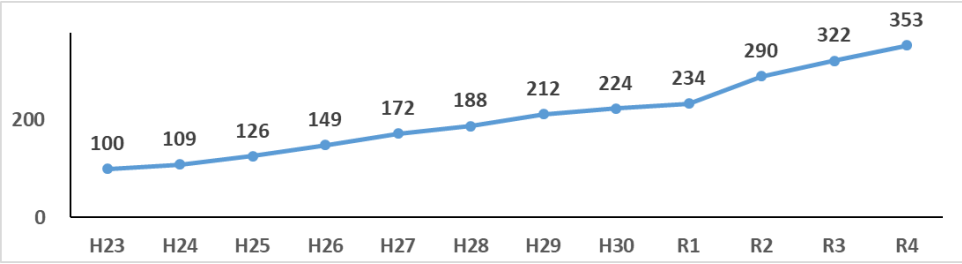
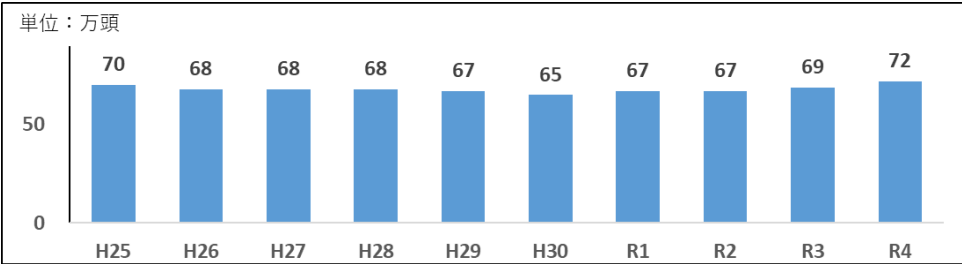
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																																																								
<p>補足データ 道立公園利用者数 【3-補-⑤】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・身近な自然とのふれあいづくりの推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・－（建設部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 ア（ウ） <input type="checkbox"/> 自然の連続性などみどりのネットワーク形成や自然環境・生態系に配慮して、身近なみどりの保全・回復・創造を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 令和4年度の道立都市公園全体の来園者数は、2,582千人と令和3年度の1,743千人を839千人上回り48.1%増加した。増加の要因は、コロナ禍の影響による休園日数が無かったことが挙げられる。なお、コロナ禍の影響を受ける前の平成30年度と比較すると787千人減少し、23.4%減少している。 <input type="checkbox"/> コロナ禍の影響もあり利用者数が減少しているが、それぞれの道立都市公園において、公園の賑わい創出のために各種イベントを開催するなど、利用促進に取り組んでいる。</p> <p>単位：千人</p>  <p><input type="checkbox"/> 令和4年度については、各圏域で前年度の利用者数を超えているが、コロナ禍の影響を受ける前の平成30年度と比較すると減少している。 令和4年度の増加した要因としては、コロナ禍の影響による休園日数がなかったことが挙げられる。</p> <p style="text-align: right;">（単位：千人）</p> <table border="1" data-bbox="448 1003 1417 1189"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>1,175</td> <td>1,158</td> <td>1,199</td> <td>1,277</td> <td>1,292</td> <td>1,218</td> <td>1,147</td> <td>582</td> <td>542</td> <td>994</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>893</td> <td>925</td> <td>961</td> <td>1,030</td> <td>988</td> <td>987</td> <td>935</td> <td>550</td> <td>583</td> <td>759</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>311</td> <td>322</td> <td>328</td> <td>323</td> <td>311</td> <td>321</td> <td>318</td> <td>177</td> <td>176</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>261</td> <td>310</td> <td>351</td> <td>325</td> <td>409</td> <td>389</td> <td>410</td> <td>205</td> <td>188</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>318</td> <td>316</td> <td>318</td> <td>296</td> <td>304</td> <td>284</td> <td>255</td> <td>206</td> <td>180</td> <td>216</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>208</td> <td>205</td> <td>203</td> <td>180</td> <td>168</td> <td>170</td> <td>175</td> <td>89</td> <td>74</td> <td>117</td> </tr> </tbody> </table>		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域(70)	1,175	1,158	1,199	1,277	1,292	1,218	1,147	582	542	994	道南(18)	893	925	961	1,030	988	987	935	550	583	759	道北(41)	311	322	328	323	311	321	318	177	176	236	オホーツク(18)	261	310	351	325	409	389	410	205	188	260	十勝(19)	318	316	318	296	304	284	255	206	180	216	釧路・根室(13)	208	205	203	180	168	170	175	89	74	117																											
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																															
道央広域(70)	1,175	1,158	1,199	1,277	1,292	1,218	1,147	582	542	994																																																																																															
道南(18)	893	925	961	1,030	988	987	935	550	583	759																																																																																															
道北(41)	311	322	328	323	311	321	318	177	176	236																																																																																															
オホーツク(18)	261	310	351	325	409	389	410	205	188	260																																																																																															
十勝(19)	318	316	318	296	304	284	255	206	180	216																																																																																															
釧路・根室(13)	208	205	203	180	168	170	175	89	74	117																																																																																															
<p>補足データ 水辺に親しめる 河川空間整備数 【3-補-⑥】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・身近な自然とのふれあいづくりの推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・－（建設部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 ア（ウ） <input type="checkbox"/> 生物の生息空間として重要な河川、湖沼、海岸、浅海域など、多様な水辺空間の保全と整備を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 着実に整備が進んでいる。 「北海道の川づくりビジョン」の基本的な方針の一つである「親しみやゆとりのある川」に基づき、河川改修等を実施しているため、整備数が増加している。 <input type="checkbox"/> 整備数向上のため、引き続き、「北海道の川づくりビジョン」の基本的な方針の一つである「親しみやゆとりのある川」に基づいた川づくりの推進に努める。</p> <p>単位：箇所</p>  <p><input type="checkbox"/> 着実に整備数が増加しており、道央広域での整備数が全体の約半数となっている。</p> <table border="1" data-bbox="454 1821 1404 2016"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>100</td> <td>101</td> <td>102</td> <td>102</td> <td>102</td> <td>102</td> <td>103</td> <td>103</td> <td>104</td> <td>104</td> <td>105</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>199</td> <td>200</td> <td>202</td> <td>203</td> <td>204</td> <td>204</td> <td>205</td> <td>205</td> <td>206</td> <td>206</td> <td>207</td> <td>209</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域(70)	100	101	102	102	102	102	103	103	104	104	105	105	道南(18)	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	道北(41)	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	オホーツク(18)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	10	十勝(19)	24	24	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	釧路・根室(13)	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	合計	199	200	202	203	204	204	205	205	206	206	207	209
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																													
道央広域(70)	100	101	102	102	102	102	103	103	104	104	105	105																																																																																													
道南(18)	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18																																																																																													
道北(41)	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39																																																																																													
オホーツク(18)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	10																																																																																													
十勝(19)	24	24	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26																																																																																													
釧路・根室(13)	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																																																																																													
合計	199	200	202	203	204	204	205	205	206	206	207	209																																																																																													



指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																													
<p>補足データ 景観行政団体移行 市町村数 【3-補-⑦】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・北海道らしい景 観づくりの推進 状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・—（建設部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 d 【施策の方向】 ア（エ） <input type="checkbox"/> 「景観形成ビジョン」に基づき、「美しい景観のくに、北海道」を目指して、自然と調和した良好な景観形成を推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 近年は順調に景観行政団体数が増加している状況。 再生可能エネルギー（主に太陽光発電施設）の乱立による景観の悪化やリゾート開発による無秩序な開発による景観の乱れを景観計画によりコントロールしようとする自治体が増えてきた。 <input type="checkbox"/> 今後も市町村が出席する会議等で景観行政団体への移行を啓発していく。</p> <p>単位：市町村</p>  <p>※景観行政団体：景観法に基づき、景観行政事務を処理する地方公共団体。 景観計画を策定し独自の景観形成基準等を定めて良好な景観づくりが出来る。</p> <p><input type="checkbox"/> 道央広域：リゾート開発の活発な後志、縄文遺跡群の胆振において近年は移行が進んだ。 道南：中核市の函館市以外移行した市町村は無い状況。 上川：中核市の旭川市から富良野市まで観光エリアの市町村で移行が進んでいる。 オホーツク：北見市と清里町が移行した以外、動きが余り見られない。 十勝：管内に景観行政団体が無い状況。 釧路・根室：近年は太陽光発電施設を抑制しようとする景観行政団体への移行を目指す動きが活発化。 全圏域共通で大きな問題とならない限り、少子高齢化に伴う人口減少や職員数の減少などにより景観への取組についての優先順位が低い又はリソースを割けない状況にあるのではと考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 機会を見て市町村への啓蒙を続けていく。</p> <p style="text-align: right;">（単位：市町村数）</p> <table border="1" data-bbox="454 1142 1404 1344"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	道央広域(70)	7	7	7	7	7	7	8	10	11	11	道南(18)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	道北(41)	4	4	5	5	5	5	6	6	6	7	オホーツク(18)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	十勝(19)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	釧路・根室(13)	1	1	1	2	2	2	2	2	3	4
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																																																				
道央広域(70)	7	7	7	7	7	7	8	10	11	11																																																																				
道南(18)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																																																																				
道北(41)	4	4	5	5	5	5	6	6	6	7																																																																				
オホーツク(18)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																																																																				
十勝(19)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																				
釧路・根室(13)	1	1	1	2	2	2	2	2	3	4																																																																				
<p>補足データ 自然公園利用者数 【3-補-⑧】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・自然とのふれあ いの推進状況の 把握</p> <p>【個別計画】 ・—（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 e 【施策の方向】 ウ（ア） <input type="checkbox"/> 人々にうるおいやすらぎをもたらす自然とのふれあいを推進するため、ふれあいの場となる利用施設の整備・維持管理や自然体験などの機会の提供を進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染症に伴う行動規制が緩和されたことから、令和4年は2,241万人となり、回復基調が見られたが、感染症の影響が出る前の令和元年と比べると約65%の利用者となっている。 ※国立、国定、道立</p> <p>単位：万人</p>  <p style="text-align: right;">（単位：万人）</p> <table border="1" data-bbox="470 1892 1380 1993"> <thead> <tr> <th></th> <th>道央広域(70)</th> <th>道南(18)</th> <th>道北(41)</th> <th>オホーツク(18)</th> <th>十勝(19)</th> <th>釧路・根室(13)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>659</td> <td>109</td> <td>241</td> <td>225</td> <td>104</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,053</td> <td>146</td> <td>289</td> <td>319</td> <td>131</td> <td>303</td> </tr> </tbody> </table>		道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)	令和3年度	659	109	241	225	104	359	令和4年度	1,053	146	289	319	131	303																																																								
	道央広域(70)	道南(18)	道北(41)	オホーツク(18)	十勝(19)	釧路・根室(13)																																																																								
令和3年度	659	109	241	225	104	359																																																																								
令和4年度	1,053	146	289	319	131	303																																																																								

指標群名称 【指標等No.】	内 容																						
<p>補足データ タンチョウの生息数 【3-補-⑨】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・生物多様性の保全状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・—（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 g 【施策の方向】 工（ア）</p> <p><input type="checkbox"/> 「希少野生動植物種保護基本方針」に基づき、捕獲等の規制や監視、生息地等の維持・再生、道民等との協働による監視活動などを進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 生息数については、増加傾向にあるものと考えられる。国や道が実施している給餌事業の効果や環境省が実施するタンチョウ保護増殖事業の進展によるものと考えられる。</p>  <p>単位：羽</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>生息数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>1,155</td></tr> <tr><td>H25</td><td>1,170</td></tr> <tr><td>H26</td><td>1,222</td></tr> <tr><td>H27</td><td>1,248</td></tr> <tr><td>H28</td><td>1,231</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,135</td></tr> <tr><td>H30</td><td>1,179</td></tr> <tr><td>R1</td><td>1,305</td></tr> <tr><td>R2</td><td>1,470</td></tr> <tr><td>R3</td><td>1,462</td></tr> </tbody> </table>	年度	生息数	H24	1,155	H25	1,170	H26	1,222	H27	1,248	H28	1,231	H29	1,135	H30	1,179	R1	1,305	R2	1,470	R3	1,462
年度	生息数																						
H24	1,155																						
H25	1,170																						
H26	1,222																						
H27	1,248																						
H28	1,231																						
H29	1,135																						
H30	1,179																						
R1	1,305																						
R2	1,470																						
R3	1,462																						
<p>補足データ 野生動植物の目録を作成した分類群の数 【3-補-⑩】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・生物多様性の保全状況の把握</p> <p>【関連計画】 ・生物多様性保全計画（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 g 【施策の方向】 工（ア）</p> <p><input type="checkbox"/> 「希少野生動植物種保護基本方針」に基づき、捕獲等の規制や監視、生息地等の維持・再生、道民等との協働による監視活動などを進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 当該目録は、レッドリスト更新に伴い作成したもの（「哺乳類」、「両生類」、「爬虫類」、「昆虫（チョウ目）、（コウチュウ目）」、「鳥類」、「魚類」）。</p>  <p>単位：群</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>分類群の数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H27</td><td>2</td></tr> <tr><td>H28</td><td>4</td></tr> <tr><td>H29</td><td>6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>6</td></tr> <tr><td>R2</td><td>6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>6</td></tr> <tr><td>R4</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	年度	分類群の数	H27	2	H28	4	H29	6	H30	6	R1	6	R2	6	R3	6	R4	6				
年度	分類群の数																						
H27	2																						
H28	4																						
H29	6																						
H30	6																						
R1	6																						
R2	6																						
R3	6																						
R4	6																						

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																																							
<p>補足データ 「アライグマ防除実施計画」の策定市町村数 【3-補-⑩】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・生物多様性の保全状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・生物多様性保全計画（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 g 【施策の方向】 エ（イ） <input type="checkbox"/> 「外来種対策基本方針」に基づき、外来種を「入れない」「捨てない」「拡げない」ことを基本として、外来種の指定や防除などを推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 策定市町村数は平成23年度以降、一貫して増加傾向にあったが、近年は増加数が鈍化傾向にある。被害が確認されないなど、防除の必要性が低い市町村においては策定していない一方、必要性がある市町村のほとんどが策定したことが要因と考えられる。 <input type="checkbox"/> 未策定の市町村に対しては、生息を確認したり、被害が発生した場合は、速やかな計画策定について助言していく。</p>  <table border="1" data-bbox="481 757 1374 844"> <thead> <tr> <th>道央広域 (70)</th> <th>道南 (18)</th> <th>道北 (41)</th> <th>オホーツク (18)</th> <th>十勝 (19)</th> <th>釧路・根室 (13)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70</td> <td>3</td> <td>37</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※カッコ内は圏域の市町村数</p>	道央広域 (70)	道南 (18)	道北 (41)	オホーツク (18)	十勝 (19)	釧路・根室 (13)	70	3	37	9	19	8																																																																											
道央広域 (70)	道南 (18)	道北 (41)	オホーツク (18)	十勝 (19)	釧路・根室 (13)																																																																																			
70	3	37	9	19	8																																																																																			
<p>補足データ エゾシカ捕獲数及び農林業被害額 【3-補-⑪】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・エゾシカの適正な保護管理推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・エゾシカ管理計画（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 h 【施策の方向】 エ（ウ） <input type="checkbox"/> 「エゾシカ管理計画」に基づき、人とエゾシカとの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、個体数管理や有効活用などの総合的な対策に取り組みます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 【捕獲数】 捕獲数は約14万5,000頭と、令和元年度以降増加している。北海道エゾシカ管理計画（第6期）の目標達成に向けて、エゾシカ捕獲推進プランの目標捕獲数を積み増しするとともに、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRし、捕獲推進を図る。また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施する。</p> <p>【農林業被害額】 農林業被害額は近年、減少傾向にあったが、令和2年度以降増加し、令和4年度は約48億円となっており、前年度から増加している。捕獲数は拡大傾向にあるものの、個体数の減少に効果的なメスジカ捕獲数が目標に達していないため、個体数が増加傾向にあると考えられる。これにより、農林業被害額が増加していると考えられる。</p>  <p><input type="checkbox"/> 令和4年度の地域別のうち、捕獲数は道央広域で31.7%、釧路・根室で27.8%となっており、この2つの地域で約6割となっている。同様に農林業被害額でも釧路・根室で35.5%、道央広域で23.7%と、この2つの地域で約6割となっている。 捕獲数は拡大傾向にあるものの、個体数の減少に効果的なメスジカ捕獲数が目標に達していないため、個体数が増加傾向にあると考えられる。これにより、農林業被害額が増加していると考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 北海道エゾシカ管理計画（第6期）の目標達成に向けて、エゾシカ捕獲推進プランの目標捕獲数を積み増しするとともに、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRし、捕獲推進を図る。また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施する。</p> <table border="1" data-bbox="438 1892 1417 2016"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">捕獲数（頭）</th> <th colspan="5">農林業被害額（百万円）</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域</td> <td>35,392</td> <td>33,525</td> <td>41,389</td> <td>51,240</td> <td>45,893</td> <td>878</td> <td>947</td> <td>974</td> <td>1,113</td> <td>1,150</td> </tr> <tr> <td>道南</td> <td>2,297</td> <td>2,310</td> <td>2,996</td> <td>3,693</td> <td>3,881</td> <td>30</td> <td>36</td> <td>89</td> <td>86</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>道北</td> <td>15,619</td> <td>15,688</td> <td>19,131</td> <td>20,227</td> <td>21,097</td> <td>426</td> <td>432</td> <td>525</td> <td>605</td> <td>786</td> </tr> <tr> <td>オホーツク</td> <td>10,303</td> <td>10,062</td> <td>12,949</td> <td>13,638</td> <td>16,130</td> <td>404</td> <td>357</td> <td>485</td> <td>511</td> <td>590</td> </tr> <tr> <td>十勝</td> <td>14,452</td> <td>13,896</td> <td>17,589</td> <td>17,993</td> <td>17,702</td> <td>461</td> <td>483</td> <td>523</td> <td>470</td> <td>525</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室</td> <td>34,169</td> <td>31,293</td> <td>35,448</td> <td>36,402</td> <td>40,286</td> <td>1,659</td> <td>1,542</td> <td>1,472</td> <td>1,695</td> <td>1,718</td> </tr> </tbody> </table>		捕獲数（頭）					農林業被害額（百万円）					H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域	35,392	33,525	41,389	51,240	45,893	878	947	974	1,113	1,150	道南	2,297	2,310	2,996	3,693	3,881	30	36	89	86	77	道北	15,619	15,688	19,131	20,227	21,097	426	432	525	605	786	オホーツク	10,303	10,062	12,949	13,638	16,130	404	357	485	511	590	十勝	14,452	13,896	17,589	17,993	17,702	461	483	523	470	525	釧路・根室	34,169	31,293	35,448	36,402	40,286	1,659	1,542	1,472	1,695	1,718
	捕獲数（頭）					農林業被害額（百万円）																																																																																		
	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4																																																																														
道央広域	35,392	33,525	41,389	51,240	45,893	878	947	974	1,113	1,150																																																																														
道南	2,297	2,310	2,996	3,693	3,881	30	36	89	86	77																																																																														
道北	15,619	15,688	19,131	20,227	21,097	426	432	525	605	786																																																																														
オホーツク	10,303	10,062	12,949	13,638	16,130	404	357	485	511	590																																																																														
十勝	14,452	13,896	17,589	17,993	17,702	461	483	523	470	525																																																																														
釧路・根室	34,169	31,293	35,448	36,402	40,286	1,659	1,542	1,472	1,695	1,718																																																																														

指標群名称 【指標等No.】	内 容																										
<p>補足データ エゾシカ個体数指数 (南部地域) 【3-補-⑬】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・エゾシカの適正な保護管理推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・エゾシカ管理計画(環境生活部)</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 h</p> <p>【施策の方向】 エ(ウ)</p> <p><input type="checkbox"/> 「エゾシカ管理計画」に基づき、人とエゾシカとの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、個体数管理や有効活用などの総合的な対策に取り組めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 個体数は減少しておらず、増加が継続していると推定される。 個体数の減少に効果的なメスジカ捕獲数が少ないことが要因と考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、エゾシカ捕獲推進プランの目標捕獲数を積み増しするとともに、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRし、捕獲推進を図る。また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施する。</p>  <table border="1"> <caption>エゾシカ個体数指数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>個体数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>100</td></tr> <tr><td>H24</td><td>109</td></tr> <tr><td>H25</td><td>126</td></tr> <tr><td>H26</td><td>149</td></tr> <tr><td>H27</td><td>172</td></tr> <tr><td>H28</td><td>188</td></tr> <tr><td>H29</td><td>212</td></tr> <tr><td>H30</td><td>224</td></tr> <tr><td>R1</td><td>234</td></tr> <tr><td>R2</td><td>290</td></tr> <tr><td>R3</td><td>322</td></tr> <tr><td>R4</td><td>353</td></tr> </tbody> </table>	年度	個体数	H23	100	H24	109	H25	126	H26	149	H27	172	H28	188	H29	212	H30	224	R1	234	R2	290	R3	322	R4	353
年度	個体数																										
H23	100																										
H24	109																										
H25	126																										
H26	149																										
H27	172																										
H28	188																										
H29	212																										
H30	224																										
R1	234																										
R2	290																										
R3	322																										
R4	353																										
<p>補足データ エゾシカ推定生息数 【3-補-⑭】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・エゾシカの適正な保護管理推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・エゾシカ管理計画(環境生活部)</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 h</p> <p>【施策の方向】 エ(ウ)</p> <p><input type="checkbox"/> 「エゾシカ管理計画」に基づき、人とエゾシカとの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、個体数管理や有効活用などの総合的な対策に取り組めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 令和4年度のエゾシカ推定生息数は72万頭となっており、近年は増加傾向にある。捕獲数は拡大傾向にあるものの、個体数の減少に効果的なメスジカ捕獲数が目標に達していないため、個体数が増加傾向にあると考えられる。これにより、農林業被害額が増加していると考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 北海道エゾシカ管理計画(第6期)の目標達成に向けて、エゾシカ捕獲推進プランの目標捕獲数を積み増しするとともに、個体数を効果的に削減するため、市町村等関係機関に対して「メスジカの積極的な捕獲」を普及PRし、捕獲推進を図る。また、更なる捕獲強化に向けて、市町村による捕獲が困難な市町村境等において道が捕獲を実施する。</p>  <p>単位：万頭</p> <table border="1"> <caption>エゾシカ推定生息数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>推定生息数(万頭)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25</td><td>70</td></tr> <tr><td>H26</td><td>68</td></tr> <tr><td>H27</td><td>68</td></tr> <tr><td>H28</td><td>68</td></tr> <tr><td>H29</td><td>67</td></tr> <tr><td>H30</td><td>65</td></tr> <tr><td>R1</td><td>67</td></tr> <tr><td>R2</td><td>67</td></tr> <tr><td>R3</td><td>69</td></tr> <tr><td>R4</td><td>72</td></tr> </tbody> </table>	年度	推定生息数(万頭)	H25	70	H26	68	H27	68	H28	68	H29	67	H30	65	R1	67	R2	67	R3	69	R4	72				
年度	推定生息数(万頭)																										
H25	70																										
H26	68																										
H27	68																										
H28	68																										
H29	67																										
H30	65																										
R1	67																										
R2	67																										
R3	69																										
R4	72																										

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																																																			
<p>補足データ 狩猟免許所持者数 【3-補-15】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・野生鳥獣の適正な保護管理推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・一（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 h 【施策の方向】 工（ウ） <input type="checkbox"/> 「鳥獣保護管理事業計画」に基づき、鳥獣保護区の指定や適正な狩猟の管理など野生鳥獣の保護管理に関する基盤的施策を推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 10年前と比較すると、1割程度増加しており、微増傾向にある。 増加要因としては、狩猟免許試験の受験機会を増やしたこと（日曜日や農閑期の実施、回数の増等）やシカ捕獲目的のわな猟免許の取得者が増加していること等があげられる。 <input type="checkbox"/> 引き続き、狩猟免許試験の受験機会の確保等を図っていく。</p> <div data-bbox="448 595 1417 853"> <p>単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>10,689</td> <td>10,968</td> <td>11,001</td> <td>11,397</td> <td>11,811</td> <td>11,822</td> <td>11,907</td> <td>11,919</td> <td>11,883</td> <td>12,362</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>10年前と比較すると、圏域毎で増減割合の違いはあるが、全体では1割程度増加しており、微増傾向にある。</p> <p style="text-align: right;">（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>4,740</td> <td>4,955</td> <td>5,001</td> <td>5,204</td> <td>5,434</td> <td>5,580</td> <td>5,431</td> <td>5,581</td> <td>5,542</td> <td>5,762</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>703</td> <td>692</td> <td>747</td> <td>790</td> <td>814</td> <td>835</td> <td>921</td> <td>930</td> <td>919</td> <td>942</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>1,642</td> <td>1,671</td> <td>1,655</td> <td>1,668</td> <td>1,765</td> <td>1,696</td> <td>1,799</td> <td>1,679</td> <td>1,741</td> <td>1,796</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>1,225</td> <td>1,258</td> <td>1,258</td> <td>1,280</td> <td>1,266</td> <td>1,190</td> <td>1,197</td> <td>1,180</td> <td>1,151</td> <td>1,251</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>1,493</td> <td>1,480</td> <td>1,442</td> <td>1,518</td> <td>1,547</td> <td>1,501</td> <td>1,537</td> <td>1,518</td> <td>1,485</td> <td>1,526</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>886</td> <td>912</td> <td>898</td> <td>937</td> <td>985</td> <td>1,020</td> <td>1,022</td> <td>1,031</td> <td>1,045</td> <td>1,085</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	人数	10,689	10,968	11,001	11,397	11,811	11,822	11,907	11,919	11,883	12,362		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域(70)	4,740	4,955	5,001	5,204	5,434	5,580	5,431	5,581	5,542	5,762	道南(18)	703	692	747	790	814	835	921	930	919	942	道北(41)	1,642	1,671	1,655	1,668	1,765	1,696	1,799	1,679	1,741	1,796	オホーツク(18)	1,225	1,258	1,258	1,280	1,266	1,190	1,197	1,180	1,151	1,251	十勝(19)	1,493	1,480	1,442	1,518	1,547	1,501	1,537	1,518	1,485	1,526	釧路・根室(13)	886	912	898	937	985	1,020	1,022	1,031	1,045	1,085
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																										
人数	10,689	10,968	11,001	11,397	11,811	11,822	11,907	11,919	11,883	12,362																																																																																										
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																										
道央広域(70)	4,740	4,955	5,001	5,204	5,434	5,580	5,431	5,581	5,542	5,762																																																																																										
道南(18)	703	692	747	790	814	835	921	930	919	942																																																																																										
道北(41)	1,642	1,671	1,655	1,668	1,765	1,696	1,799	1,679	1,741	1,796																																																																																										
オホーツク(18)	1,225	1,258	1,258	1,280	1,266	1,190	1,197	1,180	1,151	1,251																																																																																										
十勝(19)	1,493	1,480	1,442	1,518	1,547	1,501	1,537	1,518	1,485	1,526																																																																																										
釧路・根室(13)	886	912	898	937	985	1,020	1,022	1,031	1,045	1,085																																																																																										
<p>補足データ ヒグマ人身被害数 【3-補-16】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・ヒグマの適正な保護管理推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・ヒグマ管理計画 環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 h 【施策の方向】 工（ウ） <input type="checkbox"/> 「ヒグマ管理計画」に基づき、道民とヒグマのあつれき軽減とヒグマ地域個体群の存続を両立するための取組を推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 令和3年度には死傷者は14名で過去最高を記録したが、ここ数年は3～4名で推移している。 偶発的な遭遇による事故が多い（狩猟者を除く）。 令和3年度の事故原因に一定の傾向は認められず、事故が増加した原因は不明。 <input type="checkbox"/> 人側への正しい知識の普及啓発に努める。</p> <div data-bbox="448 1585 1417 1843"> <p>単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>14</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	人数	3	2	4	5	0	1	4	3	3	3	14	4																																																																									
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																								
人数	3	2	4	5	0	1	4	3	3	3	14	4																																																																																								

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																	
<p>補足データ ヒグマ捕獲数及び 農業被害額 【3-補-⑰】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒグマの適正な 保護管理推進状 況の把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒグマ管理計画 環境生活部)</li> </ul>	<p><b>【施策の基本的な方向性】</b> h</p> <p><b>【施策の方向】</b> エ (ウ)</p> <p>□ 「ヒグマ管理計画」に基づき、道民とヒグマのあつれき軽減とヒグマ地域個体群の存続を両立するための取組を推進します。</p> <p><b>【指標群の進捗状況等】</b></p> <p>[捕獲数]</p> <p>令和3年度に初めて1,000頭を超えた。 要因は、ヒグマの生息数が増加傾向にあり人里への出没や農業被害が増加し、有害捕獲件数が増えたため。 今後は、市町村による有害捕獲を実施するとともに、令和5年春から、人里に頻繁に出没する問題個体の排除や人への警戒心を植え付けることを目的とした「春期管理捕獲」を開始。</p> <p>[農業被害額]</p> <p>3年連続で過去最高を更新。 要因は、ヒグマの生息数が増加傾向にあり。被害防止対策が不十分なため。 今後は、市町村による有害捕獲を実施するとともに、市町村地域協議会等において、農林水産省の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、被害防止計画に基づく農作物被害の防止・軽減を図るための取組を実施。</p> <div data-bbox="443 875 1417 1137"> <p>単位：捕獲数（頭）、被害額（百万円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>被害額 (百万円)</th> <th>捕獲数 (頭)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>93</td> <td>628</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>128</td> <td>671</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>169</td> <td>730</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>185</td> <td>681</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>198</td> <td>849</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>228</td> <td>915</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>223</td> <td>824</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>249</td> <td>929</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>262</td> <td>1,056</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>271</td> <td>940</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	被害額 (百万円)	捕獲数 (頭)	H25	93	628	H26	128	671	H27	169	730	H28	185	681	H29	198	849	H30	228	915	R1	223	824	R2	249	929	R3	262	1,056	R4	271	940
年度	被害額 (百万円)	捕獲数 (頭)																																
H25	93	628																																
H26	128	671																																
H27	169	730																																
H28	185	681																																
H29	198	849																																
H30	228	915																																
R1	223	824																																
R2	249	929																																
R3	262	1,056																																
R4	271	940																																



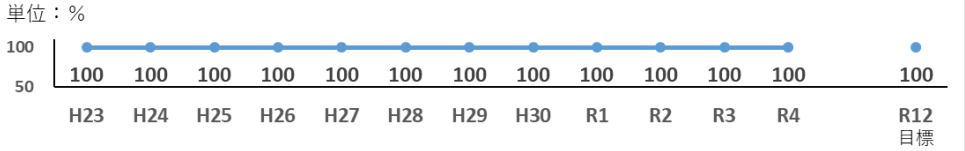
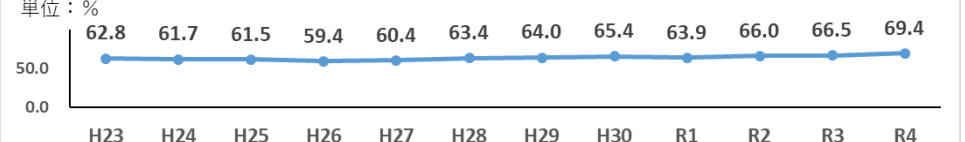
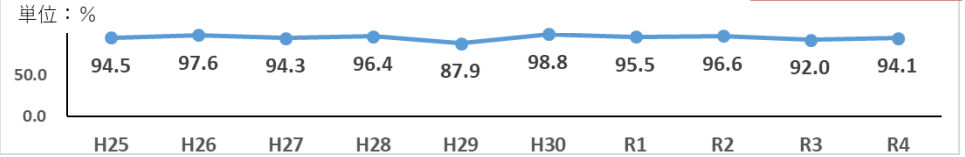
## II 関連指標群の状況

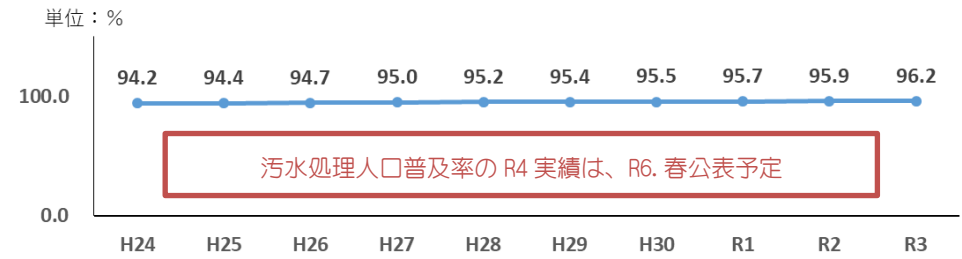
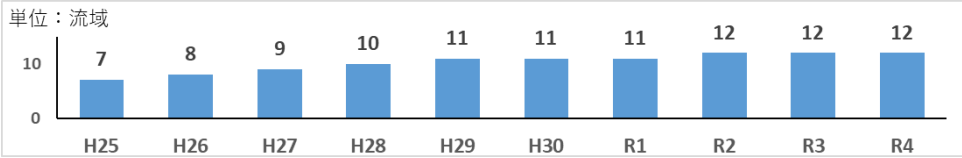
### 4 安全・安心な地域環境の確保

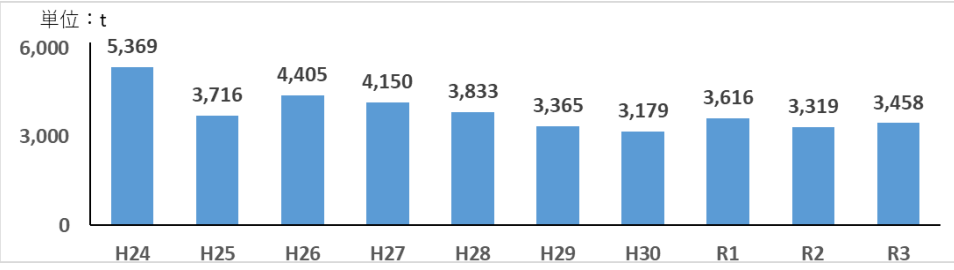
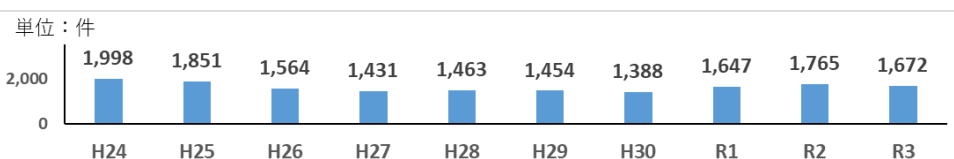
指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																																																															
<b>指標</b> 大気環境基準達成率 【4—指—①】	計画策定時の現状（基準年）	100%（平成30年度）																																																																																																														
	実績	100%（令和3年度）																																																																																																														
	目標数値等	100%（令和12年度）																																																																																																														
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> a <b>【施策の方向】</b> ア（ア） <input type="checkbox"/> 大気環境についての継続的な調査・監視や、事業者に対する指導・助言等により、大気環境の保全を推進します。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 近年は、目標を達成している。これまでの取組の浸透により、高い水準を維持できている。 <input type="checkbox"/> 現状の高い水準を維持するため、引き続き、取り組みを継続する。																																																																																																															
<b>【指標群設定の考え方】</b> ・大気環境基準の達成状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・—（環境生活部）	単位：％ <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R12 目標</td> </tr> <tr> <th>達成率</th> <td>100</td><td>100</td><td>99.5</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td> </tr> </table>		年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R12 目標	達成率	100	100	99.5	100	100	100	100	100	100	100	100																																																																																						
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R12 目標																																																																																																					
達成率	100	100	99.5	100	100	100	100	100	100	100	100																																																																																																					
<b>指標</b> 水質環境基準達成率 【4—指—②】	計画策定時の現状（基準年）	91.2%（平成30年度）																																																																																																														
	実績	90.8%（令和4年度）																																																																																																														
	目標数値等	100%（令和12年度）																																																																																																														
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> a <b>【施策の方向】</b> ア（イ） <input type="checkbox"/> 公共用水域や地下水についての継続的な調査・監視や、事業者に対する指導・助言等により、水環境の保全を推進します。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 令和4年度の本道の公共用水域における水質環境基準達成率は90.8%となっている。要因は外部との水の交換が起こりにくい閉鎖性水域の達成率が低いことが影響している。 <input type="checkbox"/> 環境基準未達成水域などにおいては、地元自治体や住民、団体等で構成する協議会を設置するなど継続的な対策が行われていることから、引き続きこれらの取組の推進について、国や市町村、地域住民や産業界などと連携して取り組んでいく。																																																																																																															
<b>【指標群設定の考え方】</b> ・水質環境基準の達成状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・—（環境生活部）	単位：％ <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R12 目標</td> </tr> <tr> <th>達成率</th> <td>91.2</td><td>91.6</td><td>92.7</td><td>91.2</td><td>92.0</td><td>91.2</td><td>91.2</td><td>90.8</td><td>90.1</td><td>90.8</td><td>100.0</td> </tr> </table>		年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R12 目標	達成率	91.2	91.6	92.7	91.2	92.0	91.2	91.2	90.8	90.1	90.8	100.0																																																																																						
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R12 目標																																																																																																					
達成率	91.2	91.6	92.7	91.2	92.0	91.2	91.2	90.8	90.1	90.8	100.0																																																																																																					
<input type="checkbox"/> いずれも水域環境基準達成率は近年横ばい傾向にある。 <input type="checkbox"/> 釧路・根室圏域を除く5圏域では水質環境基準達成率85%以上の高い水準となっているが、釧路・根室圏域では70%程度に留まっている。 釧路・根室圏域に湖沼などの閉鎖性水域が多数存在していることが要因と推察される。																																																																																																																
（単位：％） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>河川</td> <td>97.8</td> <td>96.8</td> <td>97.3</td> <td>97.8</td> <td>97.8</td> <td>96.8</td> <td>97.8</td> <td>95.2</td> <td>97.3</td> <td>96.8</td> </tr> <tr> <td>湖沼</td> <td>54.5</td> <td>54.5</td> <td>54.5</td> <td>36.4</td> <td>54.5</td> <td>54.5</td> <td>54.5</td> <td>45.5</td> <td>45.5</td> <td>54.5</td> </tr> <tr> <td>海域</td> <td>78.5</td> <td>83.1</td> <td>86.2</td> <td>81.5</td> <td>81.5</td> <td>81.5</td> <td>78.5</td> <td>86.2</td> <td>76.9</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>93.3</td> <td>96.2</td> <td>96.2</td> <td>94.2</td> <td>95.2</td> <td>93.3</td> <td>95.2</td> <td>95.2</td> <td>93.3</td> <td>95.2</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>94.1</td> <td>88.2</td> <td>94.1</td> <td>94.1</td> <td>88.2</td> <td>94.1</td> <td>82.4</td> <td>88.2</td> <td>82.4</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>97.2</td> <td>97.2</td> <td>94.4</td> <td>94.4</td> <td>100.0</td> <td>97.2</td> <td>100.0</td> <td>97.2</td> <td>100.0</td> <td>97.2</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>91.4</td> <td>82.9</td> <td>91.4</td> <td>85.7</td> <td>85.7</td> <td>88.6</td> <td>88.6</td> <td>80.0</td> <td>85.7</td> <td>85.7</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>97.2</td> <td>97.2</td> <td>100.0</td> <td>94.4</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>97.2</td> <td>94.4</td> <td>94.4</td> <td>97.2</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>70.6</td> <td>76.5</td> <td>73.5</td> <td>79.4</td> <td>73.5</td> <td>70.6</td> <td>70.6</td> <td>79.4</td> <td>73.5</td> <td>70.6</td> </tr> </tbody> </table>				H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	河川	97.8	96.8	97.3	97.8	97.8	96.8	97.8	95.2	97.3	96.8	湖沼	54.5	54.5	54.5	36.4	54.5	54.5	54.5	45.5	45.5	54.5	海域	78.5	83.1	86.2	81.5	81.5	81.5	78.5	86.2	76.9	80.0	道央広域(70)	93.3	96.2	96.2	94.2	95.2	93.3	95.2	95.2	93.3	95.2	道南(18)	94.1	88.2	94.1	94.1	88.2	94.1	82.4	88.2	82.4	88.2	道北(41)	97.2	97.2	94.4	94.4	100.0	97.2	100.0	97.2	100.0	97.2	オホーツク(18)	91.4	82.9	91.4	85.7	85.7	88.6	88.6	80.0	85.7	85.7	十勝(19)	97.2	97.2	100.0	94.4	100.0	100.0	97.2	94.4	94.4	97.2	釧路・根室(13)	70.6	76.5	73.5	79.4	73.5	70.6	70.6	79.4	73.5	70.6
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																																						
河川	97.8	96.8	97.3	97.8	97.8	96.8	97.8	95.2	97.3	96.8																																																																																																						
湖沼	54.5	54.5	54.5	36.4	54.5	54.5	54.5	45.5	45.5	54.5																																																																																																						
海域	78.5	83.1	86.2	81.5	81.5	81.5	78.5	86.2	76.9	80.0																																																																																																						
道央広域(70)	93.3	96.2	96.2	94.2	95.2	93.3	95.2	95.2	93.3	95.2																																																																																																						
道南(18)	94.1	88.2	94.1	94.1	88.2	94.1	82.4	88.2	82.4	88.2																																																																																																						
道北(41)	97.2	97.2	94.4	94.4	100.0	97.2	100.0	97.2	100.0	97.2																																																																																																						
オホーツク(18)	91.4	82.9	91.4	85.7	85.7	88.6	88.6	80.0	85.7	85.7																																																																																																						
十勝(19)	97.2	97.2	100.0	94.4	100.0	100.0	97.2	94.4	94.4	97.2																																																																																																						
釧路・根室(13)	70.6	76.5	73.5	79.4	73.5	70.6	70.6	79.4	73.5	70.6																																																																																																						

指標群名称 【指標等No.】	内 容																											
<b>指標</b> 騒音に関する環境 基準達成率 (一般地域) 【4—指—③(1)】  <b>【指標群設定の 考え方】</b> ・騒音環境基準の 達成状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・— (環境生活部)	計画策定時の現状 (基準年)	93.3% (平成 30 年度)																										
	実績	92.5% (令和 3 年度)																										
	目標数値等	100% (令和 12 年度)																										
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> c <b>【施策の方向】</b> ア (ウ) <input type="checkbox"/> 工場・事業場等から発生する騒音・振動・悪臭 を防止するため、関係法令に基づく規制地域の指定や、航空機騒音の監視などを行います。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 目標達成に向けて順調に推移しており、目標の達成に向けて、引き続き、取組を継続する。																											
<table border="1"> <caption>騒音に関する環境基準達成率 (一般地域)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>達成率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>85.4</td></tr> <tr><td>H24</td><td>85.1</td></tr> <tr><td>H25</td><td>85.9</td></tr> <tr><td>H26</td><td>83.9</td></tr> <tr><td>H27</td><td>85.7</td></tr> <tr><td>H28</td><td>85.7</td></tr> <tr><td>H29</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>H30</td><td>89.4</td></tr> <tr><td>R1</td><td>89.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td>91.3</td></tr> <tr><td>R3</td><td>92.5</td></tr> <tr><td>R12 目標</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table>			年度	達成率 (%)	H23	85.4	H24	85.1	H25	85.9	H26	83.9	H27	85.7	H28	85.7	H29	89.7	H30	89.4	R1	89.0	R2	91.3	R3	92.5	R12 目標	100.0
年度	達成率 (%)																											
H23	85.4																											
H24	85.1																											
H25	85.9																											
H26	83.9																											
H27	85.7																											
H28	85.7																											
H29	89.7																											
H30	89.4																											
R1	89.0																											
R2	91.3																											
R3	92.5																											
R12 目標	100.0																											
<b>指標</b> 騒音に関する環境 基準達成率 (自動車) 【4—指—③(2)】  <b>【指標群設定の 考え方】</b> ・騒音環境基準の 達成状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・— (環境生活部)	計画策定時の現状 (基準年)	97.1% (平成 30 年度)																										
	実績	98.1% (令和 3 年度)																										
	目標数値等	100% (令和 12 年度)																										
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> c <b>【施策の方向】</b> ア (ウ) <input type="checkbox"/> 工場・事業場等から発生する騒音・振動・悪臭 を防止するため、関係法令に基づく規制地域の指定や、航空機騒音の監視などを行います。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 近年、横ばいで推移しており、高い水準を維持できている。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、引き続き、取組を継続する。																											
<table border="1"> <caption>騒音に関する環境基準達成率 (自動車)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>達成率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>96.7</td></tr> <tr><td>H25</td><td>96.3</td></tr> <tr><td>H26</td><td>97.3</td></tr> <tr><td>H27</td><td>96.2</td></tr> <tr><td>H28</td><td>98.1</td></tr> <tr><td>H29</td><td>98.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>97.1</td></tr> <tr><td>R1</td><td>98.3</td></tr> <tr><td>R2</td><td>98.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>98.1</td></tr> <tr><td>R12 目標</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>			年度	達成率 (%)	H24	96.7	H25	96.3	H26	97.3	H27	96.2	H28	98.1	H29	98.6	H30	97.1	R1	98.3	R2	98.5	R3	98.1	R12 目標	100		
年度	達成率 (%)																											
H24	96.7																											
H25	96.3																											
H26	97.3																											
H27	96.2																											
H28	98.1																											
H29	98.6																											
H30	97.1																											
R1	98.3																											
R2	98.5																											
R3	98.1																											
R12 目標	100																											
<b>指標</b> 騒音に関する環境 基準達成率 (航空機) 【4—指—③(3)】  <b>【指標群設定の 考え方】</b> ・騒音環境基準の 達成状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・— (環境生活部)	計画策定時の現状 (基準年)	75.0% (平成 30 年度)																										
	実績	75.0% (令和 4 年度)																										
	目標数値等	100% (令和 12 年度)																										
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> c <b>【施策の方向】</b> ア (ウ) <input type="checkbox"/> 工場・事業場等から発生する騒音・振動・悪臭 を防止するため、関係法令に基づく規制地域の指定や、航空機騒音の監視などを行います。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 年度により調査箇所数が異なるため達成率が変動しているが、いずれの年度においても、新千歳空港及び千歳飛行場で基準未達成、その他空港は基準達成の状況が継続している。千歳飛行場においてはジェット戦闘機の離着陸が行われているため、新千歳空港及び千歳飛行場の一部周辺地点の測定に影響を与えているものと考えられる。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、引き続き、航空機騒音実態調査実施計画に沿って、新千歳空港及び千歳飛行場における常時監視などの取組を進める。																											
<table border="1"> <caption>騒音に関する環境基準達成率 (航空機)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>達成率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>78.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td>78.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td>78.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>R4</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>R12 目標</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>			年度	達成率 (%)	H28	75.0	H29	78.0	H30	75.0	R1	78.0	R2	78.0	R3	75.0	R4	75.0	R12 目標	100								
年度	達成率 (%)																											
H28	75.0																											
H29	78.0																											
H30	75.0																											
R1	78.0																											
R2	78.0																											
R3	75.0																											
R4	75.0																											
R12 目標	100																											



指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																														
個別指標 化学物質（ダイオキシン類）環境基準達成率 【4-個-①】  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・化学物質等による環境リスクの低減状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・一（環境生活部）	計画策定時の現状（基準年）	100%（平成30年度）																																																																													
	実績	100%（令和4年度）																																																																													
	目標数値等	100%（令和12年度）																																																																													
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> d <b>【施策の方向】</b> イ <input type="checkbox"/> ダイオキシン類についての継続的な調査・監視や事業者に対する指導・助言、P R T R制度の適切な運用などにより、化学物質等による環境汚染の未然防止を図ります。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 平成12年度以降、全道において環境基準100%達成を継続している。事業者への指導等の取組により、廃棄物焼却炉などの特定施設が適切に維持管理され、環境汚染の未然防止に繋がっているものと推察される。 <input type="checkbox"/> ダイオキシン類の調査・監視や事業者等への指導・助言などを引き続き実施することにより、ダイオキシン類による環境汚染の未然防止を図る。  単位：％ 																																																																														
補足データ 地下水環境基準の達成率 【4-補-①】  ※環境基本計画 P74 では、「地下水水質常時監視の『概況調査』及び『継続監視調査』における調査地点数及び環境基準達成率」としているが、概況調査のみのグラフも参考として掲載。  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・健全な水環境の確保状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・一（環境生活部）	<b>【施策の基本的な方向性】</b> b <b>【施策の方向】</b> ア（イ） <input type="checkbox"/> 公共用水域や地下水についての継続的な調査・監視や、事業者に対する指導・助言等により、水環境の保全を推進します。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 近年、横ばいで推移している。常時監視や事業場等への立入検査による監視・指導等を実施しているが、地下水は一度汚染されると浄化に時間がかかること等から、横ばいで推移している。 <input type="checkbox"/> 引き続き、地下水の常時監視や事業場等への立入検査による監視・指導等を効果的に実施していく。  <div style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px;">概況調査＋継続監視調査</div>																																																																														
	単位：％ 																																																																														
	<div style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px;">概況調査のみ</div> 単位：％ 																																																																														
	（単位：％） <table border="1" data-bbox="448 1733 1417 1957"> <thead> <tr> <th>（概況調査）</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域（70）</td> <td>94.4</td> <td>96.0</td> <td>92.5</td> <td>100</td> <td>84.4</td> <td>100</td> <td>96.2</td> <td>96.2</td> <td>88.6</td> <td>94.3</td> </tr> <tr> <td>道南（18）</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>92.3</td> <td>84.6</td> <td>92.3</td> <td>100</td> <td>92.8</td> <td>92.3</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>道北（41）</td> <td>87.5</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>92.8</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>92.8</td> </tr> <tr> <td>オホーツク（18）</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>50.0</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>十勝（19）</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>66.6</td> <td>66.6</td> <td>100.0</td> <td>66.6</td> <td>66.6</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室（13）</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		（概況調査）	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域（70）	94.4	96.0	92.5	100	84.4	100	96.2	96.2	88.6	94.3	道南（18）	100	100	92.3	84.6	92.3	100	92.8	92.3	100	100	道北（41）	87.5	100	100	100	92.8	100	100	100	100	92.8	オホーツク（18）	100	100	100	50.0	100	100	100	100	100	100	十勝（19）	100	100	100	100	100	66.6	66.6	100.0	66.6	66.6	釧路・根室（13）	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
（概況調査）	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																					
道央広域（70）	94.4	96.0	92.5	100	84.4	100	96.2	96.2	88.6	94.3																																																																					
道南（18）	100	100	92.3	84.6	92.3	100	92.8	92.3	100	100																																																																					
道北（41）	87.5	100	100	100	92.8	100	100	100	100	92.8																																																																					
オホーツク（18）	100	100	100	50.0	100	100	100	100	100	100																																																																					
十勝（19）	100	100	100	100	100	66.6	66.6	100.0	66.6	66.6																																																																					
釧路・根室（13）	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100																																																																					

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																													
<p>補足データ 汚水処理人口普及率 【4-補-②】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・健全な水環境の確保状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・全道みな下水道構想Ⅴ（建設部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 b 【施策の方向】 ア（イ） <input type="checkbox"/> 公共用水域や地下水についての継続的な調査・監視や、事業者に対する指導・助言等により、水環境の保全を推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 汚水処理の普及が着実に進んでいる。 全道みな下水道構想に基づき汚水処理施設の整備を進めている。 <input type="checkbox"/> 引き続き、全道みな下水道構想に基づき汚水処理施設の整備を推進し、汚水処理の普及促進を図る。</p>  <p>単位：%</p> <p>94.2 94.4 94.7 95.0 95.2 95.4 95.5 95.7 95.9 96.2</p> <p>100.0</p> <p>0.0</p> <p>H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3</p> <p>汚水処理人口普及率のR4実績は、R6.春公表予定</p> <p><input type="checkbox"/> 各圏域で汚水処理が順調に普及している。</p> <p>(単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="448 909 1414 1111"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>96.5</td> <td>96.7</td> <td>96.9</td> <td>97.1</td> <td>97.2</td> <td>97.3</td> <td>97.5</td> <td>97.6</td> <td>97.7</td> <td>97.9</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>82.5</td> <td>83.1</td> <td>83.5</td> <td>84.0</td> <td>84.4</td> <td>84.8</td> <td>85.0</td> <td>85.4</td> <td>85.7</td> <td>86.5</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>93.6</td> <td>94.0</td> <td>94.3</td> <td>94.6</td> <td>94.8</td> <td>95.0</td> <td>95.0</td> <td>95.3</td> <td>95.6</td> <td>95.9</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>92.0</td> <td>92.6</td> <td>92.9</td> <td>93.2</td> <td>93.6</td> <td>94.1</td> <td>94.5</td> <td>94.7</td> <td>94.6</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>93.2</td> <td>93.5</td> <td>93.6</td> <td>93.9</td> <td>94.2</td> <td>94.5</td> <td>94.8</td> <td>95.2</td> <td>95.4</td> <td>95.6</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>90.7</td> <td>91.2</td> <td>91.6</td> <td>91.9</td> <td>92.0</td> <td>92.2</td> <td>92.1</td> <td>92.3</td> <td>92.6</td> <td>93.1</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	道央広域(70)	96.5	96.7	96.9	97.1	97.2	97.3	97.5	97.6	97.7	97.9	道南(18)	82.5	83.1	83.5	84.0	84.4	84.8	85.0	85.4	85.7	86.5	道北(41)	93.6	94.0	94.3	94.6	94.8	95.0	95.0	95.3	95.6	95.9	オホーツク(18)	92.0	92.6	92.9	93.2	93.6	94.1	94.5	94.7	94.6	95.0	十勝(19)	93.2	93.5	93.6	93.9	94.2	94.5	94.8	95.2	95.4	95.6	釧路・根室(13)	90.7	91.2	91.6	91.9	92.0	92.2	92.1	92.3	92.6	93.1
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																																				
道央広域(70)	96.5	96.7	96.9	97.1	97.2	97.3	97.5	97.6	97.7	97.9																																																																				
道南(18)	82.5	83.1	83.5	84.0	84.4	84.8	85.0	85.4	85.7	86.5																																																																				
道北(41)	93.6	94.0	94.3	94.6	94.8	95.0	95.0	95.3	95.6	95.9																																																																				
オホーツク(18)	92.0	92.6	92.9	93.2	93.6	94.1	94.5	94.7	94.6	95.0																																																																				
十勝(19)	93.2	93.5	93.6	93.9	94.2	94.5	94.8	95.2	95.4	95.6																																																																				
釧路・根室(13)	90.7	91.2	91.6	91.9	92.0	92.2	92.1	92.3	92.6	93.1																																																																				
<p>補足データ 健全な水循環確保のための流域環境保全計画策定数 【4-補-③】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・健全な水環境の確保状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・—（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 b 【施策の方向】 ア（イ） <input type="checkbox"/> 上流域の森林地域から下流域の農漁村・都市地域まで水環境を流域全体で捉え、健全な水環境の確保を図る視点にたつて、水資源の確保と保全、水の効率的・持続的な利用などについて、関係者と連携した取組を推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 <input type="checkbox"/> 近年、微増している。 地域の環境保全団体への助言・支援等しており、微増している。 <input type="checkbox"/> 引き続き、「健全な水循環の確保のための流域環境保全計画づくりガイド」や企業との協働事業である「北海道 e-水プロジェクト」を活用し、地域の環境保全団体等の活動を支援していく。</p>  <p>単位：流域</p> <p>7 8 9 10 11 11 11 12 12 12</p> <p>H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4</p> <p>概ね横ばい・微増で推移している。 地域の環境保全団体への助言・支援等しており、横ばい・微増で推移している。</p> <p>(単位：流域)</p> <table border="1" data-bbox="448 1771 1414 1964"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域(70)				1	1	1	1	1	1	1	道南(18)	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	道北(41)	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	オホーツク(18)			1	1	1	1	1	1	1	1	十勝(19)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	釧路・根室(13)	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																				
道央広域(70)				1	1	1	1	1	1	1																																																																				
道南(18)	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2																																																																				
道北(41)	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2																																																																				
オホーツク(18)			1	1	1	1	1	1	1	1																																																																				
十勝(19)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																																																																				
釧路・根室(13)	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5																																																																				

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																													
<p>補足データ P R T R法に基づく 届出排出量及び移動量 【4-補-④】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質等による環境リスクの低減状況の把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— (環境生活部)</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 d 【施策の方向】 イ</p> <p><input type="checkbox"/> ダイオキシン類についての継続的な調査・監視や事業者に対する指導・助言、P R T R制度の適切な運用などにより、化学物質等による環境汚染の未然防止を図ります。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 近年は概ね横ばいの傾向。 経済活動の変動によるものと考えられる。</p>  <p>概ね横ばいの傾向</p> <p>(単位：t)</p> <table border="1" data-bbox="446 862 1404 1064"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>4,534</td> <td>2,894</td> <td>3,587</td> <td>3,320</td> <td>2,952</td> <td>2,474</td> <td>2,390</td> <td>2,744</td> <td>2,556</td> <td>2,717</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>301</td> <td>287</td> <td>307</td> <td>368</td> <td>343</td> <td>373</td> <td>303</td> <td>330</td> <td>231</td> <td>227</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>136</td> <td>128</td> <td>98</td> <td>143</td> <td>141</td> <td>130</td> <td>132</td> <td>151</td> <td>148</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>91</td> <td>98</td> <td>115</td> <td>55</td> <td>122</td> <td>116</td> <td>123</td> <td>125</td> <td>129</td> <td>129</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>50</td> <td>42</td> <td>42</td> <td>43</td> <td>46</td> <td>42</td> <td>4t</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>257</td> <td>266</td> <td>256</td> <td>221</td> <td>228</td> <td>230</td> <td>188</td> <td>226</td> <td>216</td> <td>207</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	道央広域(70)	4,534	2,894	3,587	3,320	2,952	2,474	2,390	2,744	2,556	2,717	道南(18)	301	287	307	368	343	373	303	330	231	227	道北(41)	136	128	98	143	141	130	132	151	148	142	オホーツク(18)	91	98	115	55	122	116	123	125	129	129	十勝(19)	50	42	42	43	46	42	4t	40	39	36	釧路・根室(13)	257	266	256	221	228	230	188	226	216	207
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																																				
道央広域(70)	4,534	2,894	3,587	3,320	2,952	2,474	2,390	2,744	2,556	2,717																																																																				
道南(18)	301	287	307	368	343	373	303	330	231	227																																																																				
道北(41)	136	128	98	143	141	130	132	151	148	142																																																																				
オホーツク(18)	91	98	115	55	122	116	123	125	129	129																																																																				
十勝(19)	50	42	42	43	46	42	4t	40	39	36																																																																				
釧路・根室(13)	257	266	256	221	228	230	188	226	216	207																																																																				
<p>補足データ 公害苦情件数 【4-補-⑤】</p> <p>【指標群設定の 考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静穏な生活環境の確保状況の把握</li> </ul> <p>【個別計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— (環境生活部)</li> </ul>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 ウ</p> <p><input type="checkbox"/> 公害苦情相談員や公害審査会の設置・運用により、公害苦情・公害紛争の適切な処理に努めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 公害苦情は令和元年度から令和2年にかけて増加したが、令和3年度は減少に転じた。苦情件数の大半を占める都市部(人口10万人以上の市)では、廃棄物の不法投棄や騒音・振動の苦情件数受付が多く、一方、郡部(その他の市町村)では、悪臭の苦情件数受付が多くなっている。</p>  <p>(単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="446 1668 1404 1926"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>833</td> <td>875</td> <td>884</td> <td>995</td> <td>909</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>117</td> <td>113</td> <td>86</td> <td>92</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>276</td> <td>153</td> <td>407</td> <td>367</td> <td>428</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>77</td> <td>82</td> <td>154</td> <td>143</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>60</td> <td>63</td> <td>38</td> <td>76</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>91</td> <td>102</td> <td>78</td> <td>92</td> <td>103</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1	R2	R3	道央広域(70)	833	875	884	995	909	道南(18)	117	113	86	92	82	道北(41)	276	153	407	367	428	オホーツク(18)	77	82	154	143	111	十勝(19)	60	63	38	76	39	釧路・根室(13)	91	102	78	92	103																																			
	H29	H30	R1	R2	R3																																																																									
道央広域(70)	833	875	884	995	909																																																																									
道南(18)	117	113	86	92	82																																																																									
道北(41)	276	153	407	367	428																																																																									
オホーツク(18)	77	82	154	143	111																																																																									
十勝(19)	60	63	38	76	39																																																																									
釧路・根室(13)	91	102	78	92	103																																																																									

## II 関連指標群の状況

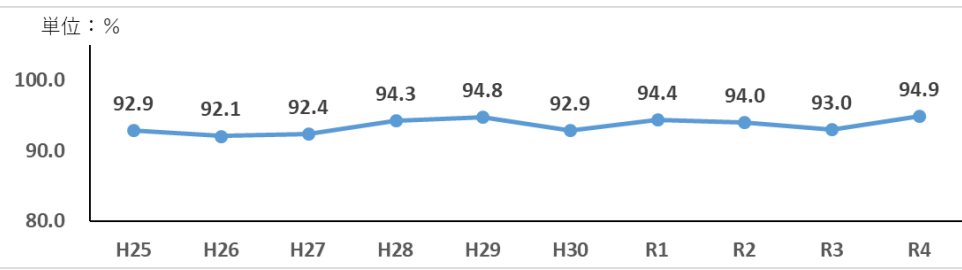
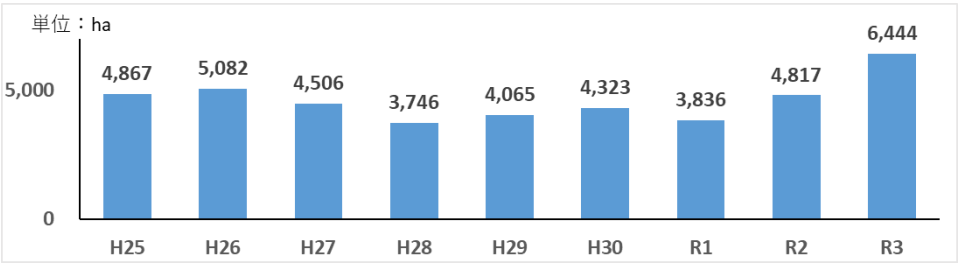
### 5 各分野に共通する施策の展開

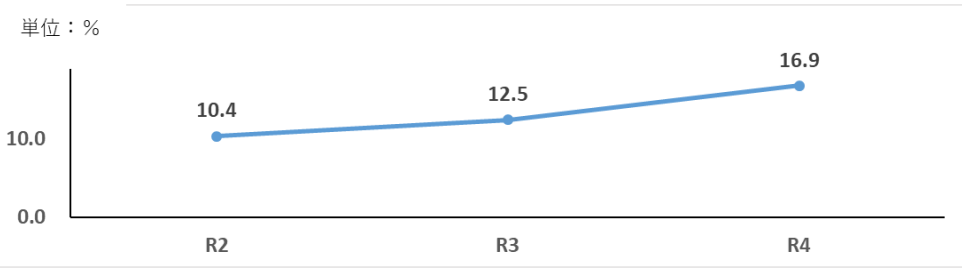
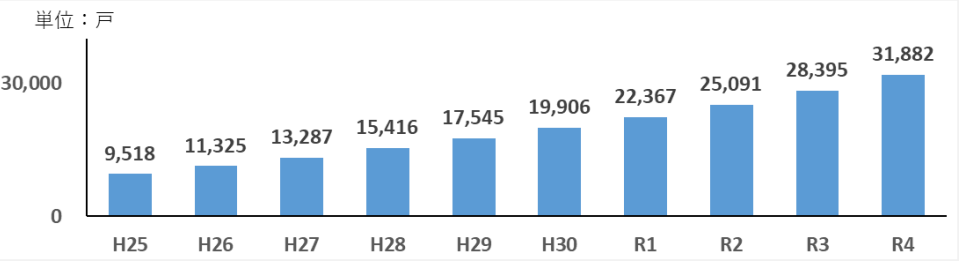
指標群名称 【指標等No.】	内 容																									
<b>指標</b> 「環境配慮活動実践者」の割合 【5-指-①】  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・環境保全意識を持ち主体的に行動できる人づくりの推進状況の把握  <b>【関連計画】</b> ・環境教育等行動計画（環境生活部）	計画策定時の現状（基準年）	76.8%（平成25年度）																								
	実績	71.8%（令和5年度）																								
	目標数値等	70.0%（令和5年度）																								
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> a、b <b>【施策の方向】</b> ア（ア） <input type="checkbox"/> 環境に配慮した北海道らしいライフスタイルの提案・普及啓発を推進し、環境配慮行動の定着を図ります。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 令和5年度に実施した道民意識調査では、環境配慮活動実践者の割合は71.8%となっており、令和元年度の59.7%から12.1ポイント上昇した。道民の環境への関心が高まり、環境に配慮した行動の増加につながっているものと考えられる。 <input type="checkbox"/> 引き続き、ホームページやイベントの実施、環境道民会議など様々な主体との連携を通じ、より多くの道民、事業者に対して環境に配慮した行動の実践を促す。																									
<p>単位：%</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr> <tr><td>H25</td><td>76.8</td></tr> <tr><td>R1</td><td>59.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td>71.8</td></tr> </table>			年度	割合 (%)	H25	76.8	R1	59.7	R5	71.8																
年度	割合 (%)																									
H25	76.8																									
R1	59.7																									
R5	71.8																									
<b>指標</b> 道の事務・事業における温室効果ガスの排出量 【5-指-②】  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・道が行う事務・事業における環境配慮状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・道の事務・事業に関する実行計画（経済部）	計画策定時の現状（基準年）	312,136t-CO <sub>2</sub> （平成25年度）																								
	実績	243,185t-CO <sub>2</sub> （令和4年度）																								
	目標数値等	156,000t-CO <sub>2</sub> （令和12年度）																								
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> d <b>【施策の方向】</b> イ（ア） <input type="checkbox"/> 道自らが、率先して、事務・事業の実施にあたり環境に配慮し、環境への負荷の低減に努めます。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 基準年度（平成25年度）から令和4年度までに22.1%減少している。前年度からの増加要因としては道立公園や体育センター、美術館等における電気の使用量増加によるもので、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の終了によるイベントの再開や利用者の増加等の影響によるものと考えられる。 <input type="checkbox"/> 目標の達成に向けて、引き続き、職場での一層の省エネの率先実行などにより、特に全排出量の約54%を占める電気に対する対策を重点的に進めるほか、改築される庁舎のZEB化や公用車の次世代自動車化などを推進する。																									
<p>単位：t-CO<sub>2</sub></p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>排出量 (t-CO<sub>2</sub>)</th></tr> <tr><td>H25</td><td>312,136</td></tr> <tr><td>H26</td><td>297,110</td></tr> <tr><td>H27</td><td>296,627</td></tr> <tr><td>H28</td><td>299,942</td></tr> <tr><td>H29</td><td>286,892</td></tr> <tr><td>H30</td><td>262,392</td></tr> <tr><td>R1</td><td>252,523</td></tr> <tr><td>R2</td><td>245,760</td></tr> <tr><td>R3</td><td>240,069</td></tr> <tr><td>R4</td><td>243,185</td></tr> <tr><td>R12 目標</td><td>156,000</td></tr> </table>			年度	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	H25	312,136	H26	297,110	H27	296,627	H28	299,942	H29	286,892	H30	262,392	R1	252,523	R2	245,760	R3	240,069	R4	243,185	R12 目標	156,000
年度	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )																									
H25	312,136																									
H26	297,110																									
H27	296,627																									
H28	299,942																									
H29	286,892																									
H30	262,392																									
R1	252,523																									
R2	245,760																									
R3	240,069																									
R4	243,185																									
R12 目標	156,000																									

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																																																																												
<b>個別指標</b> <b>YES!clean</b> <b>作付面積</b> <b>【5-個-①】</b>  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・事業者の環境に配慮した行動の促進状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・クリーン農業推進計画（農政部）	計画策定時の現状（基準年）	17,734ha（平成30年度）																																																																																											
	実績	15,454ha（令和4年度）																																																																																											
	目標数値等	20,000ha（令和6年度）																																																																																											
	<b>【施策の基本的な方向性】</b> c <b>【施策の方向】</b> イ（イ） <input type="checkbox"/> 環境との調和に配慮したクリーン農業や有機農業、自然循環型畜産の普及を推進するとともに、有機質資源の有効利用など農業生産活動を通じた環境保全の取組を促進します。 <input type="checkbox"/> 「地産地消」や「地材地消」など、関連する産業の発展と環境負荷の低減の両面に資する取組を推進します。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 平成30年度以降はYES!clean作付面積が減少傾向にある。原因は、気候変動に伴う病虫害の発生増加や高齢化による生産集団の解散など。 <input type="checkbox"/> 産地に対する働きかけや新技術の開発・普及に加え、消費者・流通業者へのPRによる消費拡大に取り組む。																																																																																												
	<input type="checkbox"/> YES!cleanの作付面積は全道的に減少傾向にあるが、中でも十勝やオホーツクなどの大規模畑作地帯における減少が大きい状況。 全道的に、気候変動に伴う病虫害の発生増加や構成員の高齢化による生産集団の解散などが減少の原因であり、圏域毎に特筆される原因は特にない。																																																																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道央広域(70)</td> <td>6,563</td> <td>8,289</td> <td>8,814</td> <td>9,083</td> <td>9,198</td> <td>9,599</td> <td>9,561</td> <td>9,731</td> <td>9,677</td> <td>9,187</td> <td>8,811</td> <td>8,804</td> </tr> <tr> <td>道南(18)</td> <td>575</td> <td>716</td> <td>841</td> <td>858</td> <td>886</td> <td>968</td> <td>852</td> <td>830</td> <td>821</td> <td>784</td> <td>755</td> <td>737</td> </tr> <tr> <td>道北(41)</td> <td>4,578</td> <td>4,365</td> <td>4,588</td> <td>4,773</td> <td>5,272</td> <td>5,188</td> <td>5,525</td> <td>5,346</td> <td>5,187</td> <td>5,174</td> <td>5,245</td> <td>5,136</td> </tr> <tr> <td>オホーツク(18)</td> <td>1,607</td> <td>666</td> <td>695</td> <td>735</td> <td>617</td> <td>570</td> <td>559</td> <td>458</td> <td>417</td> <td>384</td> <td>328</td> <td>288</td> </tr> <tr> <td>十勝(19)</td> <td>1,187</td> <td>1,106</td> <td>1,227</td> <td>1,269</td> <td>1,058</td> <td>1,153</td> <td>1,776</td> <td>1,278</td> <td>1,255</td> <td>1,230</td> <td>1,209</td> <td>448</td> </tr> <tr> <td>釧路・根室(13)</td> <td>449</td> <td>482</td> <td>478</td> <td>310</td> <td>109</td> <td>121</td> <td>116</td> <td>91</td> <td>67</td> <td>45</td> <td>43</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>			H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	道央広域(70)	6,563	8,289	8,814	9,083	9,198	9,599	9,561	9,731	9,677	9,187	8,811	8,804	道南(18)	575	716	841	858	886	968	852	830	821	784	755	737	道北(41)	4,578	4,365	4,588	4,773	5,272	5,188	5,525	5,346	5,187	5,174	5,245	5,136	オホーツク(18)	1,607	666	695	735	617	570	559	458	417	384	328	288	十勝(19)	1,187	1,106	1,227	1,269	1,058	1,153	1,776	1,278	1,255	1,230	1,209	448	釧路・根室(13)	449	482	478	310	109	121	116	91	67	45	43	39
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																																																
	道央広域(70)	6,563	8,289	8,814	9,083	9,198	9,599	9,561	9,731	9,677	9,187	8,811	8,804																																																																																
	道南(18)	575	716	841	858	886	968	852	830	821	784	755	737																																																																																
道北(41)	4,578	4,365	4,588	4,773	5,272	5,188	5,525	5,346	5,187	5,174	5,245	5,136																																																																																	
オホーツク(18)	1,607	666	695	735	617	570	559	458	417	384	328	288																																																																																	
十勝(19)	1,187	1,106	1,227	1,269	1,058	1,153	1,776	1,278	1,255	1,230	1,209	448																																																																																	
釧路・根室(13)	449	482	478	310	109	121	116	91	67	45	43	39																																																																																	
(単位：㎡/人)																																																																																													
計画策定時の現状（基準年）	19%（平成30年度）																																																																																												
実績	24%（令和4年度）																																																																																												
目標数値等	40%（令和12年度）																																																																																												
<b>【施策の基本的な方向性】</b> f <b>【施策の方向】</b> ウ <input type="checkbox"/> 持続可能で質の高い暮らしの場を目指し、まちなか居住の促進やまちに必要な機能の集約などの取組と、低炭素化やエネルギーの地産地消、資源の域内循環などの取組を連携させたまちづくりを進めます。 <b>【指標群の進捗状況等】</b> <input type="checkbox"/> 省エネ基準に適合する住宅ストックは、平成30年度以降概ね順調に増加している。北方型住宅の普及推進を図るとともに、市町村における脱炭素社会に向けた取組の支援などにより増加しているものと推察する。 <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーや道産木材の活用など脱炭素化に資する対策を取り入れた「北方型住宅ZERO」等の普及やモデル団地の展開のほか、既存住宅の省エネルギー改修の促進を図る。																																																																																													
<b>個別指標</b> <b>省エネ基準に適合する住宅ストックの割合</b> <b>【5-個-②】</b>  <b>【指標群設定の考え方】</b> ・環境への配慮を織り込んだまちづくりなどの推進状況の把握  <b>【個別計画】</b> ・住生活基本計画（建設部）																																																																																													

指標群名称 【指標等No.】	内 容																																	
<p>補足データ 環境管理システムの 認証取得事業所数 【5-補-①】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・事業者の環境に 配慮した行動の 促進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・一（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 イ（ア） □ 環境に配慮した事業活動や環境負荷の低い技術・製品・サービスの開発・普及など、企業による自主的な環境保全の取組を促進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 □ 環境管理システムの認証制度「ISO14001」、「北海道環境マネジメントシステム」、「エコアクション21」を導入している道内の事業者や組織は、平成25年度以降減少しており、令和2年度以降、ほぼ横ばいで推移してきている。 近年は「ISO14001」などの認証制度を維持しなくても同等の環境配慮活動ができる等と判断する事業所も増えてきていると想定されることから、認証取得件数が減少しているものと推察される。 □ 引き続き、ホームページやイベントなどを通じて環境管理システムの認証制度の周知に努める。</p> <div data-bbox="446 694 1412 952"> <p>単位：事業所</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr><th>事業所数</th><td>651</td><td>613</td><td>592</td><td>569</td><td>554</td><td>532</td><td>529</td><td>520</td><td>526</td><td>516</td></tr> </table> </div> <p>※ISO14001、北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）、エコアクション21（EA21）の合計</p>	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	事業所数	651	613	592	569	554	532	529	520	526	516											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																								
事業所数	651	613	592	569	554	532	529	520	526	516																								
<p>補足データ グリーン・ビズ認定 制度による登録・認定 事業所数 【5-補-②】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・事業者の環境に 配慮した行動の 促進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・一（環境生活部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 イ（ア） □ 環境に配慮した事業活動や環境負荷の低い技術・製品・サービスの開発・普及など、企業による自主的な環境保全の取組を促進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】 □ グリーンビズ認定制度による登録・認定事業所数は、近年、減少傾向にあったが、令和4年度は増加している。 令和4年4月から新たに、当制度登録を登録の必須要件としている「ゼロカーボン・チャレンジャー」登録制度を開始したことにより、「ゼロカーボン・チャレンジャー」登録制度の登録者増加に伴い、当制度の登録者も増加したとみられる。 □ 令和5年度はホームページやメールマガジンなどを活用して引き続き周知に努め、事業者への登録を促すとともに、「ゼロカーボン・チャレンジャー」登録制度と引き続き連携していく。</p> <div data-bbox="446 1500 1412 1769"> <p>単位：事業所</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr><th>登録部門</th><td>1,475</td><td>1,403</td><td>1,499</td><td>1,602</td><td>1,669</td><td>1,715</td><td>1,597</td><td>1,422</td><td>1,140</td><td>1,392</td></tr> <tr><th>認定部門</th><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td></tr> </table> </div>	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	登録部門	1,475	1,403	1,499	1,602	1,669	1,715	1,597	1,422	1,140	1,392	認定部門	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																								
登録部門	1,475	1,403	1,499	1,602	1,669	1,715	1,597	1,422	1,140	1,392																								
認定部門	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56																								



指標群名称 【指標等No.】	内 容																						
<p>補足データ 道におけるグリーン 購入調達率 【5-補-③】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・道が行う事務・ 事業における環境 配慮状況の把握</p> <p>【関連計画】 ・循環型社会形成 推進基本計画 (環境生活部)</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 d 【施策の方向】 イ(ア)</p> <p><input type="checkbox"/> 道自らが、率先して、事務・事業の実施にあたり環境に配慮し、環境への負荷の低減に努めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 90%を超えてから、近年、横ばいで推移しており、令和4年度は94.9%となっている。毎年度作成している環境物品等調達方針に基づいたグリーン購入が各所属に浸透しているため。</p> <p><input type="checkbox"/> 引き続き、北海道グリーン購入基本方針に基づき、毎年度環境物品等調達方針を作成し、各部署に説明会を行うなど、引き続きグリーン購入の周知などに取り組む。</p>  <table border="1" data-bbox="446 616 1412 884"> <caption>単位：%</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25</td><td>92.9</td></tr> <tr><td>H26</td><td>92.1</td></tr> <tr><td>H27</td><td>92.4</td></tr> <tr><td>H28</td><td>94.3</td></tr> <tr><td>H29</td><td>94.8</td></tr> <tr><td>H30</td><td>92.9</td></tr> <tr><td>R1</td><td>94.4</td></tr> <tr><td>R2</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>93.0</td></tr> <tr><td>R4</td><td>94.9</td></tr> </tbody> </table>	年度	率 (%)	H25	92.9	H26	92.1	H27	92.4	H28	94.3	H29	94.8	H30	92.9	R1	94.4	R2	94.0	R3	93.0	R4	94.9
年度	率 (%)																						
H25	92.9																						
H26	92.1																						
H27	92.4																						
H28	94.3																						
H29	94.8																						
H30	92.9																						
R1	94.4																						
R2	94.0																						
R3	93.0																						
R4	94.9																						
<p>補足データ 有機農業取組面積 【5-補-④】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・事業者の環境に 配慮した行動の 促進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・有機農業推進計 画（農政部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 c 【施策の方向】 イ(イ)</p> <p><input type="checkbox"/> 環境との調和に配慮したグリーン農業や有機農業、自然循環型畜産の普及を推進するとともに、有機質資源の有効利用など農業生産活動を通じた環境保全の取組を促進します。</p> <p><input type="checkbox"/> 「地産地消」や「地材地消」など、関連する産業の発展と環境負荷の低減の両面に資する取組を推進します。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 取組面積が順調に増加している。牧草やそばを中心に増加傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 引き続き農業者への啓発や有機農業技術の開発・普及、交流イベント等を通じた消費者の理解醸成と販路拡大に取り組む。</p>  <table border="1" data-bbox="446 1355 1412 1624"> <caption>単位：ha</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>面積 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25</td><td>4,867</td></tr> <tr><td>H26</td><td>5,082</td></tr> <tr><td>H27</td><td>4,506</td></tr> <tr><td>H28</td><td>3,746</td></tr> <tr><td>H29</td><td>4,065</td></tr> <tr><td>H30</td><td>4,323</td></tr> <tr><td>R1</td><td>3,836</td></tr> <tr><td>R2</td><td>4,817</td></tr> <tr><td>R3</td><td>6,444</td></tr> </tbody> </table>	年度	面積 (ha)	H25	4,867	H26	5,082	H27	4,506	H28	3,746	H29	4,065	H30	4,323	R1	3,836	R2	4,817	R3	6,444		
年度	面積 (ha)																						
H25	4,867																						
H26	5,082																						
H27	4,506																						
H28	3,746																						
H29	4,065																						
H30	4,323																						
R1	3,836																						
R2	4,817																						
R3	6,444																						

指標群名称 【指標等No.】	内 容																						
<p>補足データ 環境関連ビジネスを実施する企業の割合 【5-補-⑤】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・環境関連ビジネスの振興状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・省エネルギー・新エネルギー促進行動計画（経済部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 g 【施策の方向】 イ（ウ）</p> <p><input type="checkbox"/> 多様で豊富なエネルギー資源や先進的な技術など本道が持つ優位性や特性を活かして、環境産業の育成・振興をはかります。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 環境関連ビジネスを実施する企業が順調に増加した。 環境やリサイクルへの意識醸成の進展や世界的な脱炭素への潮流によるものと推察される。</p> <p><input type="checkbox"/> 数値の更なる向上に向けて、引き続き取組を進める。</p> <p>単位：％</p>  <table border="1"> <caption>環境関連ビジネスを実施する企業の割合</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>10.4</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>16.9</td> </tr> </tbody> </table>	期	割合 (%)	R2	10.4	R3	12.5	R4	16.9														
期	割合 (%)																						
R2	10.4																						
R3	12.5																						
R4	16.9																						
<p>補足データ 長期優良住宅の認定戸数 【5-補-⑥】</p> <p>【指標群設定の考え方】 ・環境への配慮を織り込んだまちづくりなどの推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・—（建設部）</p>	<p>【施策の基本的な方向性】 f 【施策の方向】 ウ</p> <p><input type="checkbox"/> 持続可能で質の高い暮らしの場を目指し、まちなか居住の促進やまちに必要な機能の集約などの取組と、低炭素化やエネルギーの地産地消、資源の域内循環などの取組を連携させたまちづくりを進めます。</p> <p>【指標群の進捗状況等】</p> <p><input type="checkbox"/> 道内で長期優良住宅として認定された戸数は令和4年度末で31,882戸となっており、着実に増加している。 北方型住宅の普及推進や、地域型住宅グリーン化事業など国が実施する住宅のカーボンニュートラルの実現に向けた取組などにより増加しているものと推察する。</p> <p><input type="checkbox"/> 住宅分野の脱炭素化を進めるために必要な財政支援などについて、国に対して要望を実施。</p> <p>単位：戸</p>  <table border="1"> <caption>長期優良住宅の認定戸数</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>戸数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>9,518</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>11,325</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>13,287</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>15,416</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>17,545</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>19,906</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>22,367</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>25,091</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>28,395</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>31,882</td> </tr> </tbody> </table>	期	戸数	H25	9,518	H26	11,325	H27	13,287	H28	15,416	H29	17,545	H30	19,906	R1	22,367	R2	25,091	R3	28,395	R4	31,882
期	戸数																						
H25	9,518																						
H26	11,325																						
H27	13,287																						
H28	15,416																						
H29	17,545																						
H30	19,906																						
R1	22,367																						
R2	25,091																						
R3	28,395																						
R4	31,882																						



指標群名称 【指標等No.】	内 容																						
<p>補足データ 環境分野における 海外からの研修 受入人数 【5-補-⑦】</p> <p>【指標群設定の 考え方】 ・環境保全に資する 国際的な取組の 推進状況の把握</p> <p>【個別計画】 ・ - (環境生活部)</p>	<p><b>【施策の基本的な方向性】</b> i</p> <p><b>【施策の方向】</b> 工</p> <p><input type="checkbox"/> 国際機関や国、民間団体等の関係機関等と連携して、情報交換や技術協力など環境に関する国際的な取組を推進します。</p> <p><b>【指標群の進捗状況等】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 令和4年度の環境分野における海外からの研修受入人数は、令和3年度に引き続き0人となっている。 新型コロナウイルス対策の影響によるものと推察される。</p> <p><input type="checkbox"/> (独法)国際協力機構(JICA)等と連携し、開発途上国の環境分野における研修生の受入に努める。</p> <div data-bbox="448 629 1401 898" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>単位：人</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25</td><td>19</td></tr> <tr><td>H26</td><td>12</td></tr> <tr><td>H27</td><td>14</td></tr> <tr><td>H28</td><td>32</td></tr> <tr><td>H29</td><td>11</td></tr> <tr><td>H30</td><td>9</td></tr> <tr><td>R1</td><td>6</td></tr> <tr><td>R2</td><td>0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>0</td></tr> <tr><td>R4</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	人数	H25	19	H26	12	H27	14	H28	32	H29	11	H30	9	R1	6	R2	0	R3	0	R4	0
年度	人数																						
H25	19																						
H26	12																						
H27	14																						
H28	32																						
H29	11																						
H30	9																						
R1	6																						
R2	0																						
R3	0																						
R4	0																						

### Ⅲ 【参考】指標群一覧

#### 目標数値について

関係する計画から指標群の目標数値を引用するものにあつては、計画の改定を行った場合、目標を見直すこととします。

#### 1 「地域から取り組む地球環境の保全」に関する指標群

##### 《指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
温室効果ガス実質排出量	二酸化炭素、メタンなど地球温暖化の原因となる温室効果ガスの年間排出量の合計値（二酸化炭素重量換算）	7,369 万 t-CO <sub>2</sub> (H25)	3,788 万 t-CO <sub>2</sub> (R12)	目標数値は、2021年度（令和3年度）に策定した「地球温暖化対策推進計画（第3次）」と同じ設定としています。
新エネルギー導入量 発電分野 （発電電力量）	太陽光、風力、バイオマス、地熱などの新エネルギーの導入量（発電分野）	8,786 百万 kWh (R元)	16,490 百万 kWh (R12)	
新エネルギー導入量 熱利用分野	バイオマス、地熱などの新エネルギーの導入量（熱利用分野）	14,578 TJ (R元)	20,960 TJ (R12)	

##### 《個別指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
森林吸収量	森林が吸収する二酸化多炭素の量	840 万 t-CO <sub>2</sub> (R元)	850 万 t-CO <sub>2</sub> (R12)	目標数値は、2021年度（平成3年度）に策定した「森林吸収源対策推進計画」と同じ設定としています。

##### 《補足データ》

名称	概要
道民一人当たりの温室効果ガス排出量	全道の二酸化炭素排出量を、一人当たりに換算したもの
部門別二酸化炭素排出量	部門別（エネルギー転換、産業、民生（家庭）、民生（業務）、運輸、工業プロセス、廃棄物）の二酸化炭素排出量
環境効率性	道内の二酸化炭素排出量を、道内総生産（GDP）で割ったもの 経済成長の程度に対する環境負荷の増減状況を表しており、数値が下がるほど、経済規模に比して環境負荷が少ない（効率が良い）
次世代自動車の保有台数	ハイブリッド(HV)、プラグインハイブリッド(PHV)、電気自動車(EV)、天然ガス自動車(CNG)、燃料電池車(FCV)の普及台数
産業部門エネルギー消費原単位	各部門の活動量1単位当たりの最終エネルギー消費量 【「新エネルギー導入拡大に向けた基本方向」目標値】
業務部門エネルギー消費原単位	
家庭部門エネルギー消費原単位	
運輸部門エネルギー消費原単位	
フロン排出抑制法に基づくフロン類の回収量・破壊量	道内におけるフロン類の回収量及び破壊量

## 2 「北海道らしい循環型社会の形成」に関する指標群

### 《指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
循環利用率	社会に投入される天然資源などの投入量のうち、循環資源（再使用・再生利用された資源）が占める割合	15.7% (H29)	17% (R6)	目標数値は、2019年度（令和元年度）に策定した「循環型社会形成推進基本計画（第2次）」と同じ設定としています。
最終処分量	一般廃棄物と産業廃棄物の最終処分量の合計	100万t (H29)	82万t 以下 (R6)	
廃棄物系バイオマス利活用率	家畜ふん尿、食品廃棄物、紙類・紙くずなどの廃棄物系バイオマスの発生量のうち、利活用された割合（炭素量換算）	89.8% (H28)	90% (R4)	
未利用バイオマス利活用率	稲わら、もみ殻、林地未利用材などの未利用バイオマスの発生量のうち、利活用された割合（炭素量換算）	71.5% (H28)	70% (R4)	

### 《個別指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
一般廃棄物の排出量（一人1日当たり）	家庭などからのごみ（一般廃棄物）の総排出量を一人1日当りに換算したもの	961 g/人・日 (H29)	900 g/人・日 (R6)	目標数値は、2019年度（令和元年度）に策定した「循環型社会形成推進基本計画（第2次）」と同じ設定としています。
産業廃棄物の排出量	道内における産業廃棄物の排出量	3,874 万t (H29)	3,750 万t以下 (R6)	
一般廃棄物のリサイクル率	一般廃棄物の排出量のうち、リサイクルされた割合	24.3% (H29)	30% (R6)	
産業廃棄物の再生利用率	産業廃棄物の排出量のうち、再生利用（リサイクル）された割合	55.5% (H29)	57%以上 (R6)	

### 《補足データ》

名称	概要
資源生産性	道内総生産（GDP）を道内の天然資源等投入量（道内で採取・投入された天然資源及び道外から輸移入された物品の総量）で割ったもの 経済成長の程度に対する環境負荷の増減状況を表しており、数値が下がるほど、経済規模に比して環境負荷が少ない（効率が良い） 【「循環型社会形成推進基本計画」補助指標】
廃棄物系バイオマスの種別ごとの発生量及び利活用量	バイオマスの種別（紙類、生ごみ、し尿等、有機性汚泥、下水汚泥、紙くず、木くず、動植物性残渣、家畜ふん尿）ごとの発生量及び利活用量
未利用バイオマスの種別ごとの発生量及び利活用量	バイオマスの種別（稲わら、もみ殻、麦かん、林地未利用材）ごとの発生量及び利活用量
バイオガスプラント施設数	道内で稼働中の家畜ふん尿及び都市廃棄物系（下水汚泥、し尿、生ごみ等）のバイオガスプラントの施設数 【「循環型社会形成推進基本計画」補助指標】
バイオマス活用推進計画等策定市町村数	バイオマス活用推進基本法に基づく「バイオマス活用推進計画」及びバイオマス産業都市構想などのバイオマス関連計画を策定した市町村の数（累積） 【「循環型社会形成推進基本計画」取組指標】
産業廃棄物処理業者の優良認定業者数	廃棄物処理法に基づく産業廃棄物処理業者のうち、優良認定事業者として認定された事業者数 【「循環型社会形成推進基本計画」補助指標】
認定リサイクル製品数	「北海道リサイクル製品認定制度」において認定されたリサイクル製品の数 【「循環型社会形成推進基本計画」取組指標】
グリーン購入の全庁的実施市町村数	市役所・町村役場のうち、全庁的にグリーン購入を実施している市町村の数 【「循環型社会形成推進基本計画」取組指標】

### 3 「自然との共生を基本とした環境の保全と創造」に関する指標群

#### 《個別指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
犬・ねこの安楽殺処分頭数	動物愛護法に基づき、道及び市町村が所有者や拾得者から引き取った犬・ねこのうち、新たな飼い主が見つからずに安楽殺処分となった頭数	1,158頭 (H28)	579頭 (R9)	目標数値は、2017年度（平成29年度）に策定した「第2次動物愛護管理推進計画」と同じ設定とします。
エゾシカ個体数指数（東部）	東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室）におけるエゾシカの個体数指数（H23を100とした場合の毎年の生息動向を相対的に示した数値）	100 (H23)	50 (R8)	目標数値は、2021年度（令和3年度）に策定した「エゾシカ管理計画（第6期）」と同じ設定としています。
エゾシカ個体数指数（北部）	西部地域（空知、上川、留萌、宗谷）におけるエゾシカの個体数指数（H23を100とした場合の数値）	100 (H23)	50 (R13)	
エゾシカ個体数指数（中部）	西部地域（石狩、胆振、日高）におけるエゾシカの個体数指数（H23を100とした場合の数値）	100 (H23)	50 (R13)	

#### 《補足データ》

名称	概要
すぐれた自然地域の面積	自然公園（国立公園・国定公園・道立自然公園）及び自然環境保全地域等の面積合計
自然保護監視員等の人数と監視延べ日数	自然保護監視員、鳥獣保護員、希少野生動植物保護監視員の人数と監視延べ日数 【「生物多様性保全計画」参考データ】
植林面積	活力ある森林づくりを行う面積 【「森林づくり基本計画」重点取組指標】
一人当たり広域公園面積	道内の都市公園のうち、広域公園に分類される公園（国営十道立）の供用面積を、一人当たりに換算したもの 【「生物多様性保全計画」関連指標】
道立公園利用者数	都市公園のうち道立都市公園の利用者数
水辺に親しめる河川空間整備数	「水辺の楽校」や「ふるさと河川整備事業」などにより、水辺に集い憩える場が整備された河川の数（累積）
景観行政団体移行市町村数	景観法に定める景観行政団体となっている道内の市町村の数
自然公園利用者数	自然公園（国立公園・国定公園・道立自然公園）の利用者数
タンチョウの生息数	タンチョウの生息状況の一斉調査（毎年度1月実施）において、観察された羽数の3年平均値
野生動植物種の目録を作成した分類群の数	植物・哺乳類・鳥類といった生物分類群ごとに道内に生息・生育する野生動植物種のリストを作成した数 【「生物多様性保全計画」参考データ】
「アライグマ防除実施計画」の策定市町村数	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）に基づき「アライグマ防除実施計画」を策定した市町村の数 【「生物多様性保全計画」関連指標】
エゾシカ捕獲数及び農林業被害額	許可捕獲と狩猟捕獲を合わせたエゾシカ捕獲数とエゾシカによる農林業被害額 【「生物多様性保全計画」参考データ】
エゾシカ個体数指数（南部）	南部地域（後志、渡島、檜山）におけるエゾシカの個体数指数（H23を100とした場合の数値）
エゾシカ推定生息数	個体数指数から推定したエゾシカ推定生息数
狩猟免許所持者数	エゾシカやヒグマ対策などの担い手となる狩猟免許所持者の数 【「生物多様性保全計画」参考データ】
ヒグマ人身被害数	ヒグマによる人身被害の数
ヒグマ捕獲数及び農業被害額	ヒグマ捕獲数とヒグマによる農業被害額

#### 4 「安全・安心な地域環境の確保」に関する指標群

##### 《指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
大気環境基準達成率	大気汚染測定局における二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質の環境基準の達成割合	100% (H30)	100% (R12)	環境基準は、人の健康等を維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていかこうとするものであるため、すべての測定地点での環境基準達成（又はその維持）を目標としています。
水質環境基準達成率	環境基準の類型当てはめをしている公共用水域（河川、湖沼、海域）の環境基準（BOD 又はCOD）の達成割合	91.2% (H30)	100% (R12)	
騒音に関する環境基準達成率（一般地域、自動車、航空機）	一般地域の騒音、自動車騒音、航空機騒音に関する環境基準の達成割合	一般地域 93.3% (H30) 自動車 97.1% (H30) 航空機 75.0% (H30)	100% (R12)	

##### 《個別指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
化学物質（ダイオキシン類）環境基準達成率	ダイオキシン類による汚染状況（大気、水質、土壌）に関する環境基準の達成割合	100% (H30)	100% (R12)	環境基準は、人の健康等を維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていかこうとするものであるため、すべての測定地点での環境基準達成（又はその維持）を目標としています。

##### 《補足データ》

名称	概要
地下水環境基準の達成率	地下水水質常時監視の「概況調査（地域全体の地下水水質を把握するための調査）」及び「継続監視調査（汚染を継続的に監視するための調査）」における調査地点数及び環境基準達成率
汚水処理人口普及率	道内人口のうち、下水道、農業集落排水、漁業集落排水、合併処理浄化槽が整備されている区域の人口の割合 【「全道みな下水道構想Ⅳアクションプログラム」整備目標】
健全な水循環確保のための流域環境保全計画策定数	健全な水循環の確保に向けて、「流域環境保全計画」を策定した流域の数
PRTR法に基づく届出排出量及び移動量	PRTR法に基づき届出された、462種類の化学物質の環境への排出量及び事業所外への移動量（合計）
公害苦情件数	地域住民から市町村や道の窓口に寄せられた公害苦情件数

## 5 「共通的・基盤的な施策」に関する指標群

### 《指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
「環境配慮活動実践者」の割合	道民意識調査において、「日常生活において環境に配慮した行動をしていますか」という問いに対して、「十分行動している」または「やや行動している」と回答した人の割合	76.8% (H25)	70% (R5)	目標数値は2013年度（平成25年度）に策定した「環境教育等行動計画」と同じ設定とし、目標達成年度については目標値の達成年度（H29）を過ぎているため上記計画の終期（R5）とします。
道の事務・事業における温室効果ガスの排出量	道の事務・事業において排出される温室効果ガスの排出量（二酸化炭素重量換算）	312,136 t-CO <sub>2</sub> (H25)	156,000 t-CO <sub>2</sub> (R12)	目標数値は2020年度（令和2年度）に策定した「第5期 道の事務・事業に関する実行計画」と同じ設定としています。

### 《個別指標》

名称	概要	基準	目標	目標値設定の考え方
YES!clean 表示制度作付面積	化学肥料・化学合成農薬の使用の削減など一定の基準を満たして生産・出荷される「YES!clean」農産物の作付面積	17,734 ha (H30)	20,000 ha (R6)	目標数値は、2019年度（令和元年度）に策定した「クリーン農業推進計画（第7期）」と同じ設定としています。
省エネ基準を満たす住宅ストックの割合	新築及び既存の住宅のうち、国が定める省エネ基準を満たす住宅の割合	19% (H30)	40% (R12)	令和7（2025）年度に予定されている新築住宅の省エネ基準への適合義務化を踏まえ、省エネ性能の向上を図る取組を促進することから、目標値を40%に設定します。

### 《補足データ》

名称	概要
環境管理システムの認証取得事業所数	3種類の環境管理システム（国際規格のISO14001、中小企業向けのエコアクション21）、北海道独自のHES（北海道環境マネジメントシステム・スタンダード）の認証を取得している道内事業所数の合計（累積）
グリーン・Biz認定制度による登録・認定事業所数	環境に配慮した取組を自主的に行う「グリーン・Biz認定制度」に基づく登録・認定事業所数
道におけるグリーン購入調達率	道が策定する「環境物品等調達方針」に定める全ての品目について、品目ごとの環境物品等調達率（総調達量に占める環境物品等調達量の割合）を単純平均したもの
有機農業取組面積	有機農業に取り組む面積 【「クリーン農業推進計画（第7期）」目標指標】
環境関連ビジネスを実施する企業の割合	道内企業の環境関連ビジネスへの参入企業の割合 【「省エネルギー・新エネルギー促進行動計画」指標】
長期優良住宅の認定戸数	長期優良住宅の普及の促進に関する法律が定める、長期にわたり良好な状態で使用するための措置がその構造及び設備について講じられた優良な住宅として認定を受けた住宅の戸数
環境分野における海外からの研修受入人数	環境分野において、JICAの研修などにより海外から道が受け入れた研修人数